

平成23年度

事業
報告



THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉 2011

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

はじめに

「共に生きる豊かな福祉社会」のために

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、朝日新聞厚生文化事業団の存在意義を改めて示すこととなりました。震災直後から朝日新聞社とともに呼びかけた東日本大震災救援募金には12年3月末現在で8万7270件、総額35億1330万円が寄せられました。35億円という多額の寄付には、皆様の被災された方々への温かい思いと志が込められているのを感じます。

11年度事業では、当事業団独自の東日本大震災被災者救援事業に重点を置きました。寄せられたお金を元に、両親を失った子どもたちへの「こども応援金」を創設、12年5月10日現在で182人（計4億4450万円）に渡すことが出来ました。現在も対象の子どもたち全員に渡せるよう努力しているところです。

さらに、震災で家族や身近な人を亡くした子どもの喪失体験に向き合う「グリーフ（悲嘆）ケア」のキャンプ、津波によって壊滅状態になった岩手県陸前高田市で高齢者が孤立しないように支援する在宅ケア、被災した障害のある人が自立した生活を送れるようにするための支援などのほか、独自の救援事業を計画し、展開しています。

またこれとは別に、宮城・岩手・福島県と、同3県の共同募金会、日本赤十字社、県市区町村社会福祉協議会74団体に総額24億6650万円を震災直後から順次、贈りました。

東日本大震災救援事業とともに、平素の事業も、計画通り実現するために全力で取り組みました。09年度から「子ども」「障害のある人」「高齢者」を事業の3本柱とする基本方針のもとに活動を進めており、「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」「自閉症カンファレンス」「高齢者への暴力防止プロジェクト助成」をはじめ、3分野にきめ細かな事業を実施しました。

当事業団は創立84年を迎えました。この間、数々の先駆的な社会福祉事業を実施してきました。今後も時代の要請に応える事業を展開してまいります。皆様のご理解とご協力を深く感謝を申し上げますとともに、11年度の事業報告をさせていただきます。

2012年5月

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

目

次

はじめに.....	1
東日本大震災.....	5
東日本大震災救援募金、35億円超に、日赤・社会福祉協議会などへ25億円を配分	5
こども応援金	6
グリーンキャンプ	7
グリーンケアセンター開設を	8
被災地ビジット（宮城・岩手18カ所）	9
高齢者在宅ケア事業の構築（陸前高田）	11
障害当事者派遣プロジェクト	12
避難所での間仕切りセット設置活動に助成	12
東日本大震災救援チャリティー報道写真展	13
子どもの福祉.....	14
児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金	14
社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」	14
ピア・キャンプの開催（静岡）	16
第58回朝日夏季保育大学（長野）	16
第28回福祉施設絵画展（名古屋）	17
障害のある人の福祉.....	18
自閉症カンファレンスNIPPON~TEACCHモデルに学ぶ実践研究会（東京）	18
メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解すること」（福岡、宮崎）	19
DVD「自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する～」	20
自閉症理解の入門書・マンガエッセイ「100%あたらくん」	20
J-C-N-E-T（ジョブコーチ・ネットワーク）会議（東京）	21
第28回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト（東京）	22
高次脳機能障害についての講演会（東京、大阪、札幌、福岡）	23
なるほど！なっとく！！高次脳機能障害～さらなる理解を求めて（名古屋）	24
講演会「あなたのうつ 私うつ となりのうつ」（大阪、東京）	25
視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」（東京）	25
「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」（東京）	26
第30回肢体不自由児・者の美術展（川崎、福岡）	26

第40回聴美会展（名古屋）	27
第46回名古屋市障害者作品展示会	27
第49回心身障害問題を考える集い（名古屋）	27
第32回障害者歩くスキーマの集い（札幌）	28
第32回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（佐賀）	28
第23回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（沖縄）	29
高齢者の福祉	30
高齢者への暴力防止プロジェクト助成	30
高齢者フォーラム「住みなれたまちで最期まで～認知症とともに～」（東京、大阪）	31
朝日高齢者福祉セミナー（名古屋）	32
高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうピジット」（全国18カ所）	32
朝日福祉ガイドブック「認知症とともに～家族が認知症になったら～」	35
福祉教育・福祉啓発推進	36
第7回自殺防止事業「自殺!? ちょっと待って!」（福岡）	36
東海グループホームスタッフ研修会（名古屋）	36
遺贈・遺言セミナー「老いじたく～あなたの財産を未来に」（東京、大阪、福岡）	37
医療と公衆衛生	38
第63回保健文化賞（東京）	38
アサヒベビー相談室（大阪、高槻、大津）	38
生活習慣病市民公開講座（北九州）	39
チャリティー事業	40
朝日チャリティー美術展（名古屋、大阪、東京）	40
第61回メサイア演奏会（東京）	41
親子で楽しむクリスマスコンサート（東京）	42
第53回各派合同三曲演奏会（大阪）	42
第59回洋舞合同祭（尼崎）	43
協賛能（大阪）	43
第58回各流合同茶会（大阪）	44
第57回歳末朝日チャリティー茶会（名古屋）	44
第49回チャリティー大茶会（北九州）	45
彩季会チャリティーバザー（東京）	45
杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会（東京）	45
その他の事業	46
西部朝日福祉助成金（九州、山口）	46
台風12号被災者救援募金	47

主な後援・協賛・協力事業一覧表	48
チャリティー美術展に出展いただいた皆様.....	56
ご寄付をいただいた皆様.....	67
朝日福祉ガイド DVD・ビデオ・本のご案内.....	73
朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ	76
2011年度収支計算書	78
理事・監事・評議員名簿.....	79
お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿.....	80

東日本大震災

東日本大震災救援募金、35億円超に 日赤・社会福祉協議会などへ25億円を配分

2011年3月11日に発生し、津波で2万人近い死者・行方不明者を出した東日本大震災。朝日新聞厚生文化事業団は11年度、この大災害に真っ向から向き合いました。震災直後に始めた東日本大震災救援募金を年度末まで継続するとともに、災害のため、特に過酷な状況に置かれることになった、子ども、障害のある人、高齢者に焦点を当てた独自の救援事業を精力的に進めました。

東日本大震災救援募金は朝日新聞社と協力して、震災当日の夜に当事業団のホームページで、また朝日新聞紙上では翌12日朝刊から呼びかけを始め、直後から現金書留と郵便振替、直接持参でのご寄付が文字通り、殺到しました。3月17日からは銀行振り込みでの受け付け、4月15日からは事業団ホームページでのクレジットカード募金も追加しました。7月からは使途を原則として事業団独自の救援事業のために切り替えさせていただき、救援事業を本格化させました。

また、膨大な数の寄付者名を朝日新聞紙面に掲載するため、3月30、31日に東京、大阪の各本社版朝刊本紙各2ページ、4月16、17日に首都圏地域面計6ページ、5月18日に東京、神奈川の地域面の合計12ページを特設しました。

ご寄付は12年3月末までの1年余りで、8万7271件、総額35億1331万2906円に達しました（年度別の内訳は、10年度分が4万8365件、17億1703万9856円、11年度分が3万8906件、17億9627万3050円）。

●お預かりしたご寄付の配分

救援募金のご寄付のうち、いわゆる「義援金」として寄託された分や、使途についてのご意思が確認できない分は「お預かりしたお金」として、総額24億6650万円を11年3月末までに配りました。内訳は以下の通りです。



10月28日朝日新聞大阪本社版朝刊社会面から

①岩手県災害義援金募集委員会、宮城、福島両県災害対策本部に各2億円の計6億円（11年4月）

②宮城県（災害孤児・遺児支援基金）2億5千万円、岩手県（いわての学び希望基金）2億円、福島県5千万円の計5億円（11年7～8月、いずれも震災で親を亡くした孤児・遺児のための使途指定）

③日本赤十字社に4億6400万円（11年3～4月と7月、12年3月）

④宮城、岩手、福島、茨城の各県社会福祉協議会に各1億円の計4億円（11年3月）

⑤宮城、岩手、福島県の各共同募金会に被災した施設・団体への助成金として各1億円の計3億円（11年11月）

⑥災害ボランティアセンター運営費として被災地の市区町村社会福祉協議会70団体に計1億9千万円（11年5～8月）

⑦福島県内の社会福祉施設に放射線量測定器計250台を配るため同県社会福祉協議会に1250万円（11年7月）



救援募金から助成した災害ボランティアセンターの活動に参加したボランティアら＝11年9月、宮城県山元町

●事業団一任のご寄付の使途

使途について「朝日新聞厚生文化事業団に一任する」というご意思が確認できたご寄付に加えて、7月7日からは、使途を原則として事業団独自の救援事業のために切り替えさせていただき（銀行振り込みは7月11日以降送金分から）、以下の「こども応援金」「グリーンキャンプ」「被災地ビジット」「陸前高田・高齢者在宅ケア事業」「障害当事者派遣プロジェクト」など、当事業団独自の被災者救援事業に充てさせていただいています。

こども応援金

当事業団主催

震災で両親を亡くした子ども（孤児）に「こども応援金」を届けています。金額は未就学児・小学生が1人当たり300万円、中学生が200万円、高校生相当年齢が150万円。「自由に使えるお金」として、対象の子どもたちに直接、渡しています。

震災直後から私たちは、両親を亡くした子どもたちのことを考えていました。同時に全国のおたくさんの方々から、ご寄付と一緒に届く「被災地の子どものために」という声に背中を押され、この応援金は動き始めました。経済的な不安を和らげ、子どもが夢をあきらめずに将来への希望を持てることに少しでも役立ちたいと考え、それぞれの年代の子どもたちが18歳を迎えるまで、

安心して暮らせるような、まとまったお金を、すべての孤児に渡すのを目標にしました。私たちは子どもの財産として直接、子ども自身の口座に応援金を贈りたいと考え、関係各方面の団体や組織への取材、交渉や関係を重ね、準備を進めました。

個人情報保護法をはじめ、多くの障壁が立ちはだかる中、岩手、宮城、福島県の各県庁に何度も足を運び、担当の部署に協力の依頼をし、6月になって、ようやく、各県と仙台市のご協力を得ることができるようになりました。各児童相談所や学校などを通じ、子どもや保護者へのお知らせ、周知を行い、当事業団で直接、子ども、保護者からの申し込みを受けています。

7月から贈呈を始め=写真、241人とされる孤児（厚生労働省調べ）のうち、12年3月末までに、7割に当たる168人に計4億1250万円を贈りました。申し込みは12年5月10日時点で187人にのぼります。「被災した子どもたちのために」と寄付を寄せてくださる多くの方々の気持ちを対象の子どもたち全員に届けることを目標に、期間を延長して、12年度も受け付けを継続し、各県に働きかけながら、周知のための努力を続けています。

なお、厚生労働省発表の孤児241人のうち、震災前に親の離婚により一人親家庭で育ち、その親が震災で亡くなったため、震災後にもう一方の親に養育されることになった子どもが約20人含まれています。このため、応援金の対象者は220人程度と見込まれます。



グリーンフキャンブ

日本キャンプ協会、日本YMCA同盟、当事業団主催

震災に遭った子どもたちのための「グリーン（悲嘆）キャンブ」に公益社団法人日本キャンプ協会、公益財団法人日本YMCA同盟とともに取り組んでいます。キャンブに関わる人の養成を含め、少なくとも5年以上、被災地の子どもたちと丁寧に向き合える活動を目指しています。

大切な人やものを喪失した悲しみ、苦しみを自分なりに整理する作業をグリーンワーク、その支援をグリーンケアと言い、グリーンキャンブはグリーンケアを含むキャンブのことです。

キャンブ第一弾は3月25日から29日まで4泊5日で台湾で実施し、震災で両親を亡くした小学2年から高校3年までの子どもたち10人が参加しました。

今回の震災で、海外からもっとも早く、多額の寄付を贈ってくれたのが台湾の人々でした。暖かな台湾で、温かな人々に囲まれて、自分たちを案じてくれている人が世界中にいることを子どもたちが直に感じ、楽しい思い出にすることも狙いの一つでした。

台湾では台湾オートキャンプ協会、国有林を管理する林務局、国立台湾師範大学、台湾松下電器などの支援をいただきました。子どもたちは多くの方々の歓迎を受け、飛行機、食べ物、外国の人とのコミュニケーションなど、さまざまなことに挑戦し、思い切り楽しむことができました。

一方で、子どもたちの何気ない会話から飛び出す、両親を亡くしたことや、家や大切にしていたもの、暮らしそのものが津波によって流されたことなど、生の言葉一つひとつの中に、喪失による悲嘆の重さを感じる場面が幾度もありました。

日本から同行したスタッフは13人。キャンプ経験豊富なスタッフにとっても、初めてづくしのキャンプでしたが、日々変化する子どもたちの様子に「キャンプの力」も同時に実感することができました。少人数でのスタートでしたが、少しずつ人数を増やし、繰り返し行うことで、子どもたちが「安心して戻れる場所」としてのキャンプを作り上げていきたいと考えています。

【キャンプの主な日程】

- 25日 成田空港から台湾・桃園空港経由で東眼山自然教育センターへ。夜、台湾オートキャンプ協会の歓迎会
- 26日 東眼山自然教育センターでキャンプ活動、夜は地元の泰雅族（タイヤル族）と交流会
- 27日 大溪を経て台北の台湾師範大学師大会館へ。夜は師大夜市巡り
- 28日 日中は台北周辺の観光。台湾師範大学による送別の晚餐会
- 29日 桃園空港発、成田空港着で帰国

●グリーンフックキャンプ・フォーラムを開催

グリーンフックの実施に当たっては、さまざまな準備を進めてきました。欧米の先行事例を調査するため、11年夏に米国テキサス州で実施されている「グリーンフック」を視察。12年2月11日には「グリーンフック・フォーラム」（日本キャンプ協会、日本YMCA同盟、当事業団主催）を東京都江東区の東京YMCA社会体育・保育専門学校で開催しました。

フォーラムは、日本でキャンプをどう進めるかを考えるのが狙いで、テーマは「楽しむ場所、悲しむ場所としてのキャンプ グリーンフックとしてのキャンプの可能性を考える」。講師にはアイルランドのトリニティ・チャイルドケア代表のテリー・ディグナンさんを招きました。

ディグナンさんは17年前に始めた、家族と死別した人たちのキャンプについて説明し、「振り返って、経験を思い出すこと」の大切さを強調。「グリーンフックで力になるのは同じような経験であり、同じような経験が、支え合うネットワークを作る」「キャンプの鍵はボランティアの選考とトレーニングだ」と語りました。米国視察の報告、台湾キャンプの紹介も行われました。

グリーンフックセンター開設を

東日本大震災救援募金の寄付を有効に活用し、「グリーンフック」という手法で、直接的に子どもたちのケアを行う「グリーンフックセンター（仮称）」を、被災した現地に作り、稼働させる準備を進めています。各県、専門職団体、民間団体などと連携して進めるための調整を進め、まず仙台に拠点を置いてスタートする予定です。3年ほどかけて専門職を養成し、岩手県、福島県にも現地センターを設置、被災各県で家族を亡くした子どものケアのために活動を開始させる構想です。次の災害時には、同様のセンターないし機関が即座に現地で機能できるようにすることを目指しています。

被災地ビジット（宮城・岩手18カ所）

当事業団主催

東日本大震災により、不自由で不安な生活を強いられている方々が少しでも心豊かなひとときを過ごせるように、通常実施している「ゆうゆうビジット」のご協力者と一緒に、岩手県、宮城県の被災された方々のもとを訪れました。

9月9日、10日にバイオリニストの川島成道さんが宮城県仙台市の盲導犬協会と児童養護施設仙台天使園を訪問したのを皮切りに、10月7日には宮城県気仙沼市を歌手のおおたか静流さんと音楽とマジックで幅広く活動する大友剛さんが訪問しました。津波で全壊した葦の芽星谷幼稚園の園児も通っている葦の芽幼稚園への訪問では、園児約330人に歌などを披露しました。テレビでおなじみの「でんでらりゅうば」の歌が始まると園児は踊りながら走り回りました＝写真上。大友さんは手品を披露したり、子どもたちが現在練習中の「宇宙戦艦ヤマト」を鍵盤ハーモニカで演奏したりしました。その交流に子どもたちも大喜びで、はしゃいだ様子でした。



11月には福祉フォーラム・東北との共催で、バイオリニストの千住真理子さんが、岩手県陸前高田市、大船渡市を訪問。まず7日に岩手県陸前高田市の知的障害者入所更生施設ひかみの園や、仮設住宅として使われている陸前高田オートキャンプ場モビリア、米崎保育園を訪問しました。モビリアのホールでは、場内の仮設住宅の入居者ら約50人を前に「G線上のアリア」「赤とんぼ」など8曲を演奏しました。仮設住宅で暮らす佐々木久美子さん(58)は「思わず涙が出てきました。この感動をみんなに分けてあげたい」と話していました。

8日は真理子さんの兄で作曲家の千住明さんにもご協力をいただき、大船渡市の大船渡保育園と蛸の浦保育園＝写真下＝を訪問しました。明さんのピアノ伴奏も加わり、前日とは違った雰囲気でのコンサートになりました。「浜辺の歌」や「夕焼け小焼け」、また明さんが作曲した「君



を信じて」などの曲も演奏し、二つの保育園でそれぞれ7曲ずつを披露しました。9日は、真理子さん単独となり仙台へ移動、「ゆうゆうビジット」での高齢者施設への訪問と、仮設の校舎で生徒が過ごす愛宕中学校を訪問しました。直前まで避難所として使われていた愛宕中学校の体育館に集まった生徒、保護者、教職員約300人を前に「アヴェ・マリア」や「アメイジング・グレイス」など計8曲を演奏したところ、会場は大きな拍手に包まれ、アンコールの声も。千住真理子さんはそれに応え、ショパンの「ノクターン」を演奏、会場に集まった生徒は真剣に聴き入っていました。

続いて、バイオリニストの川島成道さんが11月21日に宮城県東松島市の仮設住宅、翌22日に岩手県の宮古市千徳保育所と山田町の船越保育園を訪問しました。山よりの地区にある千徳保育所の約70人の子どもの中には、田老地区や山田町などで被災し、引っ越してきた十数人がいます。川島さんは遊戯室で、小さいすに腰掛けた子どもらを前にバッハやドボルザークの曲を演奏しました＝写真。



川島さんは8歳の時、薬の後遺症で目を悪くした経験から、演奏後、「10歳で音楽に出会って自分も救われた。その力を伝えたい」と語りました。

12年3月14日には、大友剛さんが岩手県陸前高田市の横田保育園、下矢作保育園を訪問しました。70人余りのうち3割以上が仮設住宅から通っているという横田保育園の園児たちは、大友さんのマジックや鍵盤ハーモニカ2台の同時演奏にとっても興奮した様子でした。今春卒園する年長組19人が鍵盤ハーモニカで「結んで開いて」を大友さんと合奏。「思い出のアルバム」などを大友さんの伴奏で歌いました。大友さんは、「家では大きい声で騒いだり、走り回ったりできない子どもたちが公演の中で発散ができてよかった」と話しました。

一方で、震災では子どもの命を守り、それ以来子どもたちのケアにあたってほっとする間もなかった保育園や幼稚園の先生方だけのためのコンサートを開催したいという大友さんの強い思いがありました。14日の夜、実現かなったコンサートが始まった次の瞬間、大きな地震が発生、津波注意報が発令され、演奏会は断念しなければならなくなりました。

中止になった公演を改めて実施したいという大友さんの思いはもちろん、出演にご協力いただいているみなさんの支援を継続していきたいというお気持ちを受け止め12年度も引き続き被災地ビジットを実施する予定です。

11年度は次の18カ所の訪問を実施しました。

	訪問者	訪問日	地域	訪問先
1	川畠成道	9月9日	宮城県仙台市	盲導犬協会
2		9月10日	宮城県仙台市	児童養護施設仙台天使園
3	おおたか静流	10月7日	宮城県気仙沼市	葦の芽幼稚園
4	大友剛	10月7日	宮城県気仙沼市	気仙沼カトリック幼稚園
5	千住真理子	11月7日	岩手県陸前高田市	知的障害者入所更生施設ひかみの園
6		11月7日	岩手県陸前高田市	陸前高田オートキャンプ場モビリア(仮設住宅)
7		11月7日	岩手県陸前高田市	米崎保育園
8		11月8日	岩手県大船渡市	大船渡保育園
9		11月8日	岩手県大船渡市	蛸の浦保育園
10		11月9日	宮城県仙台市	愛宕中学校
11	川畠成道	11月21日	宮城県東松島市	グリーンタウン矢本(仮設住宅)
12		11月22日	岩手県宮古市	宮古市千徳保育所
13		11月22日	岩手県山田町	船越保育園
14	大友剛	3月14日	岩手県陸前高田市	横田保育園
15		3月14日	岩手県陸前高田市	下矢作保育園
16		3月14日	岩手県陸前高田市	米崎保育園(中止)
17		3月15日	岩手県大船渡市	日頃市保育園
18		3月15日	岩手県大船渡市	大船渡保育園

高齢者在宅ケア事業の構築（陸前高田）

NPO法人 福祉フォーラム・東北、当事業団主催

津波により壊滅状態になった岩手県陸前高田市で、仮設住宅に近接した場所に高齢者らを支援するための拠点を設置し、現地に密着した在宅ケア事業を構築することを目指しています。

被災地や被災地以外の住民、医師、看護師、介護サービス従事者などが職種を超え、被災地を支援する中で求められている「包括的ケア体制」。その実現のために、NPO法人「福祉フォーラム・東北」（会長＝中村順子・日本赤十字秋田看護大学准教授）を創設、地域コミュニティーづくりに取り組んでいます（12月に1千万円を拠出）。

被災地では新たに認知症と診断される高齢者が相次いでいます。仮設住宅など新たな環境での生活を強いられる中、部屋に閉じこもりがちになり、認知症の症状が悪化したり、顕在化したりしていると考えられています。被災地の再生に不可欠な保健・医療・福祉のシステムを築いていくために、在宅での保健・医療・介護ニーズの高い、高齢者、障害のある人、子どもまで、幅広く支えることが出来る多機能な拠点づくりが緊急の課題です。介護や看護など複数の在宅サービス機能を併せ持ち、一体的なサービス提供ができる土地、建物、人を確保し、現地に密着した「暮らしの保健室」のような役割を担うことを目指しています。

障害当事者派遣プロジェクト

東北関東大震災障害者救援本部、当事業団主催

宮古市、大船渡市、陸前高田市など岩手県内で不自由な生活を強いられている障害のある人のもとへ、県外の障害のある人が訪問し、生活の悩みを聞き、安心して暮らせるように支援する「障害者派遣プロジェクト」を、東北関東大震災障害者救援本部と当事業団が主催。兵庫、大阪、山形、沖縄で社会資源を活用しながら一人で自立した生活をしている14人が、介助者ととも1週間ごとに交代でおおよそ100日間滞在しました＝写真。



6月末、1組目のスタッフが訪問。人工透析を受けていた病院が流され、遠方の病院へタクシーで通院する人や仮設住宅のトイレに車いすが入らず排泄（はいせつ）に困っている人、入浴ができない人などの暮らしは、「このままでは障害のある人とその家族は一家共倒れになってしまう」と悲痛な報告をスタッフが寄せる状況でした。

訪問者は、被災地の障害のある人に寄り添い、解決の糸口を一緒に探し続けました。9月に大阪から派遣されたスタッフは、バリアフリー型仮設住宅のあり方を現地の利用者の目線で考えるとともに、「当事者の声を聞きながら環境を整えて欲しい」と行政と一緒に要望を出すなど、活動は日を追うごとに具体的なものになっていきました。

岩手県の沿岸部では、もともと障害のある人が地域で暮らすためのヘルパー派遣制度などが十分でなく、入所施設や家族介護などで閉じこもりがちな生活を送っていた人が多かったと言われており、同本部世話人の佐藤聡さんは「他の地域で自立している障害者をロールモデルとして示す意義は大きい」と話しています。

訪問したスタッフのレポートには「社会資源が少ない」と一様につづられています。被災した町が元の姿に戻るだけでなく、障害のある人が当たり前で暮らせる環境が整えられるように、当事者の人たち自身の取り組みを今後も支援していきます。

なお「障害者派遣プロジェクト」は国連ボランティア計画（UNV）が初めて発表した「世界ボランティア白書」や他メディアでも取り上げられるなど、関心を集めています。

避難所での間仕切りセット設置活動に助成

重度の障害のある人や高齢者が避難所でプライバシーを確保するために、間仕切りセットを設置した社会福祉法人「AJU自立の家」に総額1800万円を助成しました（このうち11年度分は震災救援募金からの1300万円、残りは事業団会計10年度分からの支出）。

【参考】10年度の当事業団会計からの独自の震災救援事業

当事業団は11年3月末に緊急対応で独自の震災救援事業を実施し、救援募金のご寄付とは別に事業団会計から計2千万円を支出。

①障害のある人たちの全国ネットワークで、震災直後から現地を含め救援活動が続けている東北関東大震災救援本部の岩手、宮城、福島の実地本部設立のために1050万円

②福島県いわき市内で被災し、さらに福島原発事故の影響で東京都新宿区の戸山サンライズに避難した障害のある人の当面の生活費などに充てるため、東北関東大震災救援本部に450万円

③社会福祉法人「AJU自立の家」による避難所での間仕切りセット設置活動に500万円を、それぞれ贈りました。

東日本大震災救援チャリティー報道写真展

朝日新聞社、当事業団主催。凸版印刷、日本通運 特別協力

東日本大震災救援チャリティー報道写真展を4月29日から5月11日まで、朝日新聞社との共同主催で東京都千代田区の有楽町朝日ギャラリーで開きました＝写真。期間中に約9500人が訪れ、会場での東日本大震災救援募金には約460万円が寄せられました。

朝日新聞のカメラマンや記者が震災や津波の被災地や原発事故の避難者らを撮った写真など約80点が展示され、「言葉が出ない」と涙ぐむ来場者も多数、見られました。「声、届け。ともに歩む」という写真展の題は、写真を通じて被災地とそれ以外の地域の声がそれぞれ届くようにと願いを込めたもので、来場者がカードに被災地への思いをつづる「シンサイミライノハナPROJECT」のコーナーも設けられました。



●東日本大震災報道写真展にも協力

また、3・11の東日本大震災から1年の節目に合わせて、12年3月2日から14日まで「東日本大震災報道写真展」（朝日新聞社主催、三菱商事協賛）が同じ有楽町朝日ギャラリーで開かれ、当事業団も運営に協力しました。

朝日新聞の記者が被災地を中心に撮影した写真約60点などの展示のほか、震災で亡くなった約1万5千人の名前と年齢も掲示されました。発生直後の被災状況と、その後の歩みをたどったもので、期間中に約5500人が訪れ、会場では約200万円の寄付金が東日本大震災救援募金に寄せられました。

子 ど も の 福 祉

児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

当事業団主催

児童養護施設や里親家庭で生活しながら進学を希望する高校生へ、入学時に必要な入学金と施設設備費、支度金10万円（合計100万円を限度）を贈る「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」の募集をし、8月31日の締め切りまでに88人の応募がありました。9月30日に選考会が開かれ24人が内定。最終的に辞退者を除いた20人に応援金が贈られました。高校生進学応援金の贈呈は、事業団設立80周年記念事業の一つとして始まったもので、今回が4回目になりました。

贈呈を受けた高校生の集いを3月20日に朝日新聞東京本社で開き、12人が参加しました。前年は東日本大震災のため中止となっており、開催は2年ぶり。集いには特別ゲストとして、社会的養護の当事者推進団体「なごやかサポートみらい」の代表の関戸敏夫さんを招き、高校生に励ましのエールを送っていただきました。翌21日には途中から参加したメンバーを含め13人全員でディズニーシーへ出かけ、交流を深めました。

児童養護施設や里親家庭から自立する子どもは経済的な理由など様々な理由から進学をあきらめざるを得ないケースも多く、一般家庭の子どもたちにくらべ、極めて低い進学率となっています。今後も進学率を少しでも高め、多くの高校生に将来への希望をもってもらえるよう、この取り組みを進めていきます。

社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」

●全国ネットワークで情報交換

児童養護施設や里親家庭で暮らしたことがある人たちが中心になって活動するグループと朝日新聞厚生文化事業団が、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」を10年4月に結成。以後、月に一度程度の定例会議で情報交換をしながら具体的な活動について話し合っています。

11年11月5、6日には「こどもっと」のメンバー7人が鳥取市の当事者団体レインボーズを訪問しました。レインボーズと連携して施設退所者の支援を行う「ひだまり」を見学し、退所後の子どもたちの実態と必要なサポートについて情報を交換。また、児童養護施設鳥取こども学園の藤野興一園長から、児童養護施設の現状などについてうかがいました。

●社会的養護と当事者の声

虐待をはじめ何らかの事情で実の親と離れて暮らさなければならない子どものために、家庭に代わる養育の場として制度的に用意されているのが児童養護施設や乳児院、里親家庭などです。こうした制度を「社会的養護」と言い、約4万人の子どもがこの制度を利用しながら全国で暮らしています。

ピア・キャンプの開催（静岡）

当事業団、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」主催
日本キャンプ協会、静岡県キャンプ協会後援

前年に引き続き、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」とともに「ピア・キャンプ」を9月23日から25日まで静岡県立朝霧野外活動センターで開きました＝写真。

6都県の児童養護施設や里親家庭で暮らす高校生と施設で暮らしたことがある当事者スタッフら、合わせて約40人が参加。富士山のふもとでサイクリングや野外炊事、キャンプファイアなどの活動をともし、将来の夢などについても話し合いました。

参加した高校生からは「将来は当事者活動に参加し、全国の仲間と仲良くなりたい」「いろいろな人に児童養護施設のことについて知ってもらいたいので、当事者活動に参加してみたい」などの感想が寄せられました。



第58回朝日夏季保育大学（長野）

当事業団、朝日新聞社主催。長野県、諏訪市、全国社会福祉協議会、長野県社会福祉協議会、長野朝日放送後援。大同生命厚生事業団協賛



講演する川崎医療福祉大学の佐々木正美特任教授

保育従事者の技術と教養の向上のために始まり、58回目を迎えた朝日夏季保育大学を7月29、30日、長野県諏訪市の駅前市民会館で開き、保育士をはじめ、幼稚園の先生など「乳幼児の健やかな育ち」を願う約550人が参加しました。

作曲家の青島広志さんのピアノ演奏に合わせ、テノール歌手の小野勉さんと会場が一緒になって歌い、踊る、「音楽の楽しさの体験」から保育大学は始まりました。

初日の午後には、NPO法人それいゆ副理事長で自閉症の子の母親でもある江口寧子さんが講演を行い、自閉症の人が安心して過ごせるように個人の特性に合わせて環境を整

える「構造化」の例を、写真を用いて具体的に説明。また、自閉症の子どもの親へどのように周りの人が接したらよいかを、相談員と親としての立場、両方を知る江口さんならではの目線で語りました。

2日目は、社会的養護の当事者参加推進団体日向ぼっこ理事長で、子どもの頃に児童養護施設で暮らしていた渡井さゆりさんと、自死遺族支援ネットワーク Re の山口和浩代表が「当事者が語る子どもの気持ち」と題し、体験者の視点でそれぞれ講演。渡井さんは、親が助けを求められず、さらに追い詰められ、結果として虐待に至ってしまう状況を解説し、「困難を抱えた人を孤立させず、社会全体でサポートする体制作りが必要」と訴えました。

今年度の保育大学の締めくくりは、絵本作家の武田美穂さん。絵本の登場人物が笑う場面で聞き手も一緒に笑う「参加型」の朗読や、絵本のキャラクター「がんこちゃん」の描き方の実演など、日々の子どものとのかかわりに生かせるヒントが満載の講演でした。

テーマと講師は次の通り（敬称略）。

【7月29日（金）】	
「幼児期に必要な歌」	青島広志 [作曲家]・小野勉 [テノール歌手]
「子どもへのまなざし」	佐々木正美 [児童精神科医]
「発達障害～子どものための親支援」	江口寧子 [それいゆ副理事長・自閉症の子の母]
【7月30日（土）】	
「子どものトラウマとその手当て」	西澤哲 [山梨県立大学教授]
「当事者が語る子どもの気持ち」	
「親と離れ施設で暮らすこと」	渡井さゆり [社会的養護の当事者参加推進団体日向ぼっこ理事長]
「自死で親を失うこと」	山口和浩 [自死遺族支援ネットワーク Re 代表]
「食卓が育む子どものこころ」	室田洋子 [臨床心理士]
「子どもと楽しむ～絵本の世界から」	武田美穂 [絵本作家・イラストレーター]

第28回福祉施設絵画展（名古屋）

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会主催、当事業団など後援

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会の福祉施設に入所、通所する人たちの作品を展示する絵画展を7月中旬から8月中旬に市内の児童福祉センター、篠島観光協会案内所などで開きました。

33施設から前回は上回る683点の応募があり、特賞6点、入選37点、佳作66点が表彰されました。朝日新聞厚生文化事業団理事長賞は、「海へダイビング」の画題でのびやかに描いた小学校4年神鳥響さん（慈友学園）が受賞しました。

障 害 の あ る 人 の 福 祉

自閉症カンファレンスNIPPON～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会（東京）

当事業団、自閉症カンファレンスNIPPON実行委員会主催
厚生労働省、文部科学省、日本自閉症協会、全日本手をつなぐ育成会、日本知的障害者福祉協会後援

「自閉症カンファレンス NIPPON 2011」を8月27日、28日、東京都新宿区の早稲田大学で開催、全国から教育・福祉関係者、家族ら約千人が参加しました＝写真上。自閉症の人たちへの支援の会議としては国内最大級で、今回10回目を迎えました。

日本の「TEACCH（ティーチ）プログラム」の実質的な実践の始まりは、1989年にプログラムの創始者、故エリック・ショプラー教授と3人のトレーナーを日本に招き、当事業団などが開いたトレーニングセミナーです。自閉症の人たちへの支援プログラムとして「TEACCHプログラム」は、この20年間で着実に日本に根付いてきました。「TEACCHプログラム」の考え方を柱に、自閉症の人への理解を深めようと集った実践者と有志が中心になって2002年から毎年、開催してきたのがこのカンファレンスです。

節目の会議となった今回、初日は米国・ノースカロライナ大学の元TEACCH部部長のゲーリー・メジボフ教授＝写真下＝が「自閉症の人の学習スタイル～10年でわかったこと、かわったこと～」をテーマに講演、最新情報を提供。佐々木正美・川崎医療福祉大学特任教授も「自閉症の人へのまなざし」と題して、これまでの取り組みを振り返りました。

ノースカロライナのチャペルヒルTEACCHセンターのディレクターを長年務めたリー・マーカスさんも来日。アスペルガー症候群や高機能自閉症の人への支援の実際、また家族への支援について、2日間にわたって語っていただきました。

2日目午後には「自閉症の人たちへの支援 NEXT 10 YEARS」のテーマでシンポジウムを開き、メジボフ教授、佐々木教授に、福島大学大学院教授でよこはま発達クリニック院長の内山登紀夫さんも加わり、これからの課題を話し合いました。

また日本国内での実践について、四つの分科会で全国から20の報告が行われ、入門解説講座「基礎からの構造化」、「評価と自立課題」や、全国各地での活動を報告するポスターセッションなど、多彩な企画のほか、完成したばかりのDVD「自閉症の人が見ている世界」が初公開されました。（参加費1万2千円）



佐々木教授を中心にした実行委員会と、延べ100人を超える若いボランティアスタッフによって開催されるカンファレンスは10回目を迎えた今回も2日間、滞りなく運営されました。「自閉症を正しく理解する」支援者の輪をさらに広げ、新たな未来を開いていけるよう向上を目指します。

メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解すること」(福岡、宮崎)

当事業団、NPO法人それいゆ など主催

「自閉症カンファレンス」のために来日した米国・ノースカロライナ大学のゲーリー・メジボフ教授の講演会を8月30日に福岡市の大博多ホール、9月1日に宮崎市民プラザで開催。福岡では約400人、宮崎では約500人が参加し、熱心に耳を傾けました。

原因が特定できず、理解の難しい自閉症。教育現場、専門家や親にさえ、正しく理解されていないことが多く、そのことがご本人たちの生活をするうえでの困難をさらに増やし、複雑にしています。自閉症の人たちに適切な支援をするために必要なこと。言うまでもなく、それは「自閉症の人たちを正しく理解すること」です。講師のメジボフ教授は、いま世界で最も認められ、実践されている自閉症の人たちへの支援モデルであるTEACCHプログラムを今日の世界規格に育て上げた人で、「自閉症は脳の障害（damage）ではなくて脳の働き方の違い（difference）であり、その違いを正しく理解することが大切です」と訴えました。

この講演会は、04年度から08年度まで熊本、長野、京都、青森、奈良、09年度は札幌市と沖縄県豊見城市、10年度は高松で開催し、自閉症の人たちへの支援に取り組んでいる地元の関係者に多大なご協力をいただきました。この催しをきっかけに、自閉症の人たちへの支援の活動が地域で根をはり、充実するように、今後も各地の関係者と協力しながら、一步一步、活動を積み重ねていきます。

◇講演の概要

テーマ 「自閉症を正しく理解すること～自閉症の支援で最も大切なこと～」

講師 ゲーリー・メジボフ・ノースカロライナ大学TEACCH部元部長

内容 講演「自閉症の人たちの学習スタイル～正しく理解する」

講演「構造化された指導～自閉症の学習スタイルに合わせた支援」

講演「自閉症の支援で最も大切なこと～TEACCHプログラムのコア・バリュー」

参加費 3千円

(福岡会場は、福岡県自閉症協会、福岡市自閉症協会、NPO法人それいゆ、当事業団主催、福岡県、福岡市、福岡県発達障害者支援センターあおぞら、福岡県発達障害者支援センターゆう・もあ後援。宮崎会場は、宮崎県自閉症協会、宮崎県発達障害者支援センター、NPO法人それいゆ、当事業団主催、宮崎県、宮崎市、宮崎県教育委員会、宮崎市教育委員会、宮崎県社会福祉協議会、宮崎県知的障害者施設協議会、宮崎県手をつなぐ育成会、宮崎LD・発達障害児者親の会フレンド後援)

DVD「自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する～」

朝日福祉ガイドDVDシリーズ「自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する～」(企画・制作・著作・発行＝朝日新聞厚生文化事業団)が完成、9月から頒布を始めました。「自閉症の人の学習スタイル」「自閉症の人が好むこと」「13人のエピソード」の3巻セット＝写真＝で、TEACCHプログラムの紹介・普及の第一人者、佐々木正美・川崎医療福祉大学特任教授と、TEACCHプログラムを世界規格に育て上げた米国ノースカロライナ大学のゲーリー・メジボフ教授が監修を担当しました。



このDVDシリーズは、高機能自閉症やアスペルガー症候群を含む自閉症の人のものの見方や感じ方、考え方などの違いを分かりやすく整理し、紹介したものです。子どもから大人まで13人の自閉症の方々による実際の映像を中心に構成しています。

解説にメジボフ教授も特別出演。自閉症、発達障害の人の教育、福祉、医療、生活の支援に関わるすべての人に、「正しい理解」について学ぶことができ、支援者の研修、学生やボランティアなどの研修、親の会などの学習会、医療診断後の説明など、広く活用できる関係者待望の画期的なDVDシリーズです。朝日新聞厚生文化事業団の創立80周年記念事業の一つで、完成までに構想8年、制作期間2年をかけました。

9月の発行から3月末までの6か月間で購入希望が約2千セットにのぼるというご好評をいただいているため、特別3巻セット価格(9900円)での頒布を当初予定より半年延長し、12年9月末までとしました(各巻価格4300円)。

自閉症理解の入門書・マンガエッセイ「100%あらたくん」

「自閉症カンファレンスNIPPON」の10回目を記念し、10回分の抄録に収められたマンガエッセイ「100%あらたくん」(茂木和美著)を1冊にまとめ、同カンファレンスの参加者に資料として配布したところ、大変好評のため、希望者への頒布を始めました＝写真。

個性的なわが子を、ときには不安になりながら、寄り添い、支える日々を100話の4コママンガで綴(つづ)っています。「あらたくん」の幼少期から思春期までの大活躍を笑いぐるみ、自閉症の子どもと、その家族の日常を理解することができる、ユーモアいっぱいの作品で、自閉症を理解する入門書としても好評です。B5判64ページ、定価600円。



J C-N E T (ジョブコーチ・ネットワーク) 会議 (東京)

当事業団、NPO法人J C-N E T (ジョブコーチ・ネットワーク) 主催

「ジョブコーチ」とは、障害のある人と企業の双方をサポートする役割を担う支援者のことです。そのネットワーク「J C-N E T (ジョブコーチ・ネットワーク)」は、当事業団の支援で2004年度に創設され、05年度にはNPO法人を取得し、厚生労働省指定の「職場適応援助者養成研修」などの事業を積極的に展開しています。

当事業団は、ジョブコーチの正しい理解、普及を図り、障害のある人の就労を支援する人材や資源を育成するために、J C-N E Tとの共同主催で、3月10日、11日、「J C-N E T会議」を東京都多摩市の大妻女子大学多摩キャンパスで開催。就労支援の専門家ら約400人が参加し、転換期にある就労支援制度などについて話し合いました。前年度は前日に発生した



東日本大震災のため中止しており、2年ぶりの開催。11日午後には震災の発生時刻に合わせて、会場の全員が1分間、黙とうしました＝写真。会議の概要は次の通りです（敬称略）。

【10日】キーノート・スピーチ「いま、障害のある人の雇用について」小川浩（J C-N E T代表・大妻女子大学）▽事例検討「企業とジョブコーチの連携を考える」シンポジスト・中川昭一（レオパレス・スマイル）、早乙女静枝（中野区障害者福祉事業団）、司会・志賀利一（国立のぞみの園）▽ワークショップⅠ①「企業の視点から学ぶ就労支援」コーディネーター・堀江美里（WEL' S TOKYO）②「相談支援から始まる就労支援」コーディネーター・東良太郎（いたみ杉の子 ウィズゆう）③「企業の部屋」コーディネーター・湯田正樹（キューピーあい）▽入門講座Ⅰ「ジョブコーチとは」大澤隆則（ぷろっぷ）、「アセスメントとジョブマッチング」小松邦明（高松市障害者相談支援事業所）

【11日】実践発表分科会「現場からの実践報告」①コーディネーター・西村浩二（広島県発達障害者支援センター）、②コーディネーター・松本玲子（福岡ジョブサポート）▽ワークショップⅡ「就労移行支援事業を考える」コーディネーター・濱田和秀（クロスジョブ堺）▽入門講座Ⅱ「分かりやすく教える」柴田珠里（横浜市発達障害者支援センター）、「ナチュラルサポート・フェイディング・フォローアップ」稲葉健太郎（名古屋総合リハビリテーションセンター）▽シンポジウム「福祉から就労へ～前進するために何が必要か」シンポジスト・関口彰（厚生労働省）、酒井大介（加島友愛会）、若尾勝己（Z A C）、東良太郎、司会・小川浩、助言者・志賀利一

参加費 1万円（J C-N E T会員8千円）

第28回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト（東京）

当事業団、全日本ろうあ連盟、朝日新聞社主催。厚生労働省、文部科学省、テレビ朝日福祉文化事業団、日本手話通訳士協会、全国聾学校長会後援。NEC協賛。東京都聴覚障害者連盟協力

手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進を図るため1984年に始まった「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」は、28回目を迎えました。

8月20日、東京都千代田区の有楽町朝日ホールで行われた本選では、原稿と映像の審査で選ばれた10人が舞台に立ち、手話と音声と同時に使ったスピーチで日ごろの練習の成果を競いました。

開会式では、秋篠宮妃殿下が手話を交えて東日本大震災での聴覚障害者の苦労や支援の取り組みに触れ、「聴覚障害者の生活支援への理解がさらに深まり、みなが安心して暮らせる社会が築かれるよう希望します」と述べました。

今回の応募は、71人。男性の申し込みが増え、本選にも3人が出場し注目を集めました。1位に選ばれたのは、「絆」をテーマに発表した富山国際大学付属高校3年の山崎芽佑里さん＝写真。「手話を学ぶことで『対人恐怖症』を克服し、人に心を許せるようになった。これからも人との絆を大切にしたい」と話しました。

2位の高知県立安芸高校3年・坂本雪乃さんは「信頼される弁護士を目指して」という題で、障害の有無にかかわらず安心して生活できる社会の実現を目指すため、障害者に信頼される弁護士になりたいという夢を語り、3位の滋賀県立八幡高校3年の凶司裕亮さんは「日本に豊かな心の絆を回復させよう」と題してスピーチしました。奨励賞は東京都立大泉桜高校2年の城戸翔太さんと、大分県・楊志館高校3年の吉良健太郎さん。入賞者には賞状とトロフィー、協賛のNECからノートパソコンやスマートブックなどの賞品が贈られました。また、参加者全員にNECから、手話スピーチの録画DVDと記念品が贈られました。

特別プログラムは、ユニバーサルデザイン・コンサルタントの松森果林さんが「誰でも手話リソナル」と題して講演。障害のない人だけの目線で構成されることの多い日本の社会を、誰にとっても生活しやすいユニバーサルデザインに変えていく必要性を訴えました。

また本年はNPO法人シュアールグループの技術協力を得て、東日本大震災聴覚障がい者支援岩手本部と会場をインターネットで結び、「手話でのメッセージ交換」を行いました。

審査員は小椋英子・日本手話通訳士協会会長、君島淳二・厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長、宮本一郎・東京都聴覚障害者連盟理事長、久松三二・全日本ろうあ連盟事務局長、松本正志・全日本ろうあ連盟手話通訳対策部長、浜田陽太郎・朝日新聞論説委員のみなさんに務めていただきました。



高次脳機能障害についての講演会（東京、大阪、札幌、福岡）

当事業団主催。日本脳外傷友の会、大同生命厚生事業団など後援

交通事故や病気で脳を損傷した高次脳機能障害の人たちは、日常生活の中でさまざまな問題に直面しています。当事業団では、当事者とその家族、医療・福祉関係者らを対象に、09年度は「高次脳機能障害を理解する」、10年度は「高次脳機能障害のひとを支援する」をテーマに講演会を開催し、その理解の普及啓発に努めてきました。11年度は「高次脳機能障害がよくなるということ」の意味を考える講演会を、2月4日に東京・浜離宮朝日ホール（参加者400人）、同月26日に大阪 YMCA 会館ホール（同350人）で開きました。また、10年度に東京と大阪で行ったのと同様の講演会「高次脳機能障害のひとを支援する」を、7月3日、札幌・かでの2・7（同280人）、10月29日に福岡・明治安田生命ホール（同250人）で実施しました。いずれも参加費は千円。

●講演会「高次脳機能障害がよくなるということ」〈東京・大阪会場〉

講演会では、10年前にくも膜下出血で高次脳機能障害の当事者になった小澤富士夫さんが奥様の立神粧子さんと一緒に、ニューヨーク大学・ラスク研究所で治療・リハビリを受け、症状が劇的に改善した米国の事例を例に、「よくなるということ」の意味を私たちがどう理解すればよいのかを探りました。

第1部では、まず神奈川リハビリテーション病院高次脳機能障害支援室長の青木重陽さんが「治療者が感じること」と題して講演。高次脳機能障害は多様性があり、変化するものでパターンでは割り切れないが、症状に合わせて多層的な対応をしていくことが大切と指摘。当事者本人と環境（家族、職場など）に分け、段階的な関わりの仕方を具体的に説明しました。

この後、立神粧子さんが「当事者と家族が感じること」と題し、ラスク研究所の治療、リハビリの概要を説明。ご主人の小澤富士夫さんが通訳の仕事を引き受けるまでに、「仕事の理解」「身支度」「時間の管理」などをどのように工夫したかを話しました。

第2部のシンポジウム「高次脳機能障害の治療とその意味」＝写真は大坂会場＝では、神奈川リハビリテーション支援センター所長の大橋正洋さんがコ



ーディネーターを務め、①障害を共通に理解する②ラスク研究所の通院プログラム③障害によって考えざるを得ない人生や家族、の三つのポイントにしぼって話し合いが行われ、第一部の内容をさらに深めました。小澤さんは、しっかりと質問に受け答えをし、また事前に用意した「当事者として感じること」の原稿をはっきりとした口調で読み上げるなど、米国での治療の成果をアピールし、満員の会場の人たちを驚かせました。

（東京会場は、NPO 法人日本脳外傷友の会、NPO 法人東京高次脳機能障害協議会后援。大阪会場は、NPO 法人日本脳外傷友の会、頭部外傷や病気による後遺症を持つ若者と家族の会、NPO 法人大阪脳損傷サポートセンター、堺脳損傷協会、大同生命厚生事業団後援）

●講演会「高次脳機能障害のひとを支援する」〈札幌・福岡会場〉

高次脳機能障害は、事故や脳卒中などで脳に後天的な損傷を受け、記憶力や集中力が低下したり、感情が抑えられなくなったりします。しかし、外見からは障害がわからないため、周囲の人の理解が得られにくいのが実情です。国立成育医療研究センター・リハビリテーション科医長の橋本圭司さんは「高次脳機能障害の基本的な理解」で具体的な事例を交え、治療力には「時間が良薬になる」と話しました。

その後、橋本さんは、脳卒中で高次脳機能障害を克服、社会復帰した医師の宮田康弘さん（札幌会場）、山田規敏子さん（福岡会場）＝写真＝と対談。福岡会場では、山田さんは「人を人として見ることが大切。医師や看護師など専門家と一緒に生活をしながら学び合う、ワークショップの場をつくるのが夢です」と語ってくれました。「地域の自立支援のあり方をさぐる」シンポジウムでは、神奈川工科大学教授・小川喜道さんをコーディネーターに、岐阜医療科学大学教授・阿部順子さん、NPO法人コロポックルさつぽろ主任生活指導員・斎藤嘉須美さん（札幌会場）、NPO法人高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」理事／家族会代表・星川広江さん（福岡会場）、特定非営利活動法人ほっぷの森理事長・白木福次郎さんが支援の取り組みや課題を報告しました。



（札幌会場は、NPO法人日本脳外傷友の会、NPO法人コロポックルさつぽろ、北海道、札幌市後援。福岡会場は、NPO法人日本脳外傷友の会后援、福岡・高次脳機能障がい者と共に歩む翼の会「福岡・翼の会」協力）

なるほど！なっとく！！高次脳機能障害 ～さらなる理解を求めて（名古屋）

NPO法人高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」主催。当事業団後援

高次脳機能障害の人の支援施設を運営しているNPO法人「笑い太鼓」が、高次脳機能障害についての正しい理解と支援の輪を広げていく講座をシリーズで実施しました。名古屋市朝日ホールで9月3日、「手をつなぐ 支援の輪～作業療法士の視点から～」のテーマで開かれ、作業療法士で横浜市の「クラブハウスすてっぷなな」所長の野々垣睦美さんの事例を交えての実践的な話を聞きました。シリーズ12回目の今回は関東や兵庫、大分県などの遠方からも含めて304人の申し込みがありました。あいにく当日は台風前日の影響で公共交通機関が乱れるなどで心配されましたが、それでも200人もの人たちが参加して関心の高さを示しました。

さらに12年2月26日には豊橋市総合福祉センターあいトピアでも、同じテーマで野々垣さんの講演会を開催し、88人が参加しました。多数のアンケートが寄せられましたが、もっとも関心を寄せている問題として「高次脳機能障害者への対応の仕方」が挙げられ、熱心な聴講ぶりが印象的でした。

講演会「あなたのうつ 私のうつ となりのうつ」(大阪、東京)

当事業団主催。地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会連合会後援

うつ病について理解を深め、発症した人がどのようにうつ病と付き合いながらその人らしく生きていけるのかを考え、支援の手がかりをつかむための講演会「あなたのうつ 私のうつ となりのうつ ～みんなでうつを考えよう～」を12年3月17日に大阪市西区の大阪YMCA会館で、3月20日に東京・有楽町の朝日スクエアで開きました。精神科医で国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター長の大野裕さんの講演=写真=と、大野さんと当事者の対談に、うつ病の当事者や家族も含め、ともに約200人の参加者が聴き入りました。



大野さんは、「うつ病と単なる落ち込みとはどう区別するのか」ということや、気付き、認知行動療法など「上手に付き合う方法」などをわかりやすく解説しました。その後、大阪会場では、就職後うつ病を発症して退職、現在は就労継続支援A型作業所で働く男性が、地域での生活で困難だったことや、パートナーの支えについて話した後、うつ病と付き合うために現在心がけていることを披露しました。また、東京会場では学生時代に「うつ」を発症、その後断続的に症状に悩まされている当事者の女性が、家族や友人の支えについて触れながら、「うつ病は治療で完治する心の風邪とは思っていません。いったん知り合ってしまったら、気長に、長期スパンでかかわっていく相棒です」と話しました。

また、東日本大震災後、「がんばろう日本の空気に、結果的に逆らってしまううつ病。頑張れなくても受け入れてもらえる世の中は、誰にも住みやすいように感じられる」という当事者の訴えに対し、「人それぞれの『がんばり方』があるのを押しつけられるのはつらい。それぞれの生き方が大切にされることが大事です」と大野さんがまとめました。

視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」(東京)

当事業団、聖明福祉協会主催

視力障害のある大学生を支援する「聖明・朝日盲大学生奨学金」の貸与式が7月2日、東京都内のホテルであり、第43期生の3人に目録が手渡され、3人の門出を祝いました=写真=。

この奨学金は、国内初の視力障害学生を対象とした奨学金制度として1969年に創設され、進学希望者の向学心を支えてきました。貸与者総数は194人と



なりました。

第43期生に選ばれた大山桂司さんは社会福祉士の資格取得が目標で、信國沙織さんもソーシャルワーカーを目指しています。また、長谷部亮治さんは「将来、発展途上国の視覚障害のある子どもに数学を教えたい」という夢を持っています。貸与式では、本間昭雄・聖明福祉協会理事長が奨学生を励まし、続いて、安達周・朝日新聞厚生文化事業団事務局長が3人に目録を手渡しました。

近年は障害のある学生へ門戸を開く大学の数は増え、点字での受験が認められたり、障害者支援室が設けられたりしています。今後、さらにバリアフリー化が進むことが望まれます。

歴代の貸与者の中には、弁護士や大学教授、市議会議員、ピアニストなど、さまざまな分野で活躍する人が少なくありません。

「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」(東京)

内閣府主催。当事業団ほか後援

障害者に対する理解を深めるための「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」の表彰式が12月2日に東京都港区の日本学術会議講堂で開かれ、最優秀賞を受賞した5人に総理大臣名の賞状と副賞が贈られました。

作文の最優秀賞は福岡県筑前町立東小田小6年の美根雄馬さんら3人で、それぞれ自分の作品を朗読しました。脳性マヒで手足が不自由な美根さんは、水泳大会で、他の出場者と同じ距離を泳げた経験、応援してくれた仲間への感謝の思いを語り、大きな拍手を浴びました。

各部門の最優秀賞は次の方々です。(敬称略)

【作 文】

小学生＝福岡県・筑前町立東小田小6年 美根雄馬

中学生＝福岡県・糸島市立志摩中3年 中村 誠

高校生・一般＝富山県立高岡商業高2年 旅誠一朗

【ポスター】

小学生＝鳥取市立宝木小1年 徳永萌花

中学生＝山口県・周南市立周陽中3年 河村侑亮

第30回肢体不自由児・者の美術展(川崎、福岡)

日本肢体不自由児協会主催。厚生労働省、文部科学省、当事業団など後援

第30回肢体不自由児・者の美術展の入賞者の表彰式が12月8日、神奈川県川崎市市民ミュージアムであり、書とコンピュータアートの2作品に朝日新聞厚生文化事業団賞を贈りました。

入賞作品は12月8日から11日まで同ミュージアムで、12年2月28日から3月4日の期間は福岡市・アクロス福岡で展示されました。

入賞者のうち、主な特賞は次の通りです(敬称略)。

【厚生労働大臣賞】

絵画 舘野昌子（宇都宮市障がい者福祉センター）

書 松原松子（兵庫県相生市）

【文部科学大臣奨励賞】

絵画 外輪真歩（長崎県立諫早特別支援学校中学部2年）

コンピュータアート 井長原大志（大阪市立光陽特別支援学校高等部1年）

【東京都知事賞】

絵画 金子ゆかり（東京都世田谷区）

書 高橋葵（東京都・筑波大学附属桐が丘特別支援学校小学部2年）

【朝日新聞厚生文化事業団賞】

書 藤本ひかる（福岡県立田主丸特別支援学校高等部2年）

コンピュータアート 北野あいこ（鳥取県・ワークセンター フロンティア）

第40回聴美会展（名古屋）

中部聴力障害者美術同好会主催。愛知県、名古屋市、当事業団など後援

聴覚障害の美術愛好家らが自主運営する美術展「聴美会展」が7月26日から31日まで、名古屋市民ギャラリーで開催されました。40回記念とあって前回は上回る27人から絵画25点、工芸54点、写真26点の計105点が出品されました。最優秀賞の朝日新聞厚生文化事業団賞は、工芸の船戸さとみさんが受賞しました。

第46回名古屋市障害者作品展示会

名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連合会主催。当事業団など後援

第46回名古屋市障害者作品展示会が12年2月21日から26日まで、名古屋市博物館で開催されました。4歳から85歳までの障害者が制作した書道28点、絵画71点、写真27点、手芸50点、工芸57点の5部門233点を展示。期間中1070人が見学に訪れました。当事業団は「朝日賞」として5部門に楯（たて）と賞状を贈りました。

第49回心身障害問題を考える集い（名古屋）

社会福祉法人あさみどりの会主催。当事業団後援

第49回心身障害問題を考える集いが6月11日、名古屋市中区の朝日ホールで開かれ、「発達障がい児の支援」をテーマに講演と対談がありました。

児童精神科医で豊田市こども発達センター長の高橋脩さんが「発達障がいのある子どもの育ちを支える～障がいの理解と支援について」と題し、その特徴や経過、かかり方などについて事例を交えて具体的に語り、理解と支援する仕組みを社会全体で作っていくことの必要性を訴えました。

後半の対談では、前さわらび園長の畠村善照さんをコーディネーターに、愛知県自閉症協会副会長の岡田ひろみさんが「つぼみの会」での活動体験をもとに幼児期から成人期に至るまでのプロセスと家族支援について話され、高橋さんは「働く青年」のまじめに取り組む姿を具体的に紹介されました。社会全体で理解し支援していく仕組みを構築していく必要性を考えさせる論議に約250人の参加者は聴き入っていました。

第32回障害者歩くスキーの集い（札幌）

当事業団、朝日新聞北海道支社主催。三菱電機協賛

障害のある人もない人も一緒に歩くスキーをマイペースで楽しむ「第32回障害者歩くスキーの集い」を1月15日、札幌市南区の滝野すずらん丘陵公園で開きました＝写真。

今回は230人が参加。晴天の雪景色を楽しみながら、子どもから高齢者まで全員が新雪コースを楽しみました。ボランティアも多数、運営に加わり、大会を盛り上げました。



第32回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（佐賀）

九州車椅子バスケットボール連盟、当事業団主催

第32回朝日九州車いすバスケットボール選手権が12月3、4日、佐賀県の佐賀市諸富文化体育館で開かれ、九州・沖縄から参加した12チームがトーナメント方式で戦った結果、「SEASIRS（シーサーズ）」（沖縄）が初優勝を果たしました。

今大会は、6連覇を誇る「太陽の家スパーズ」（大分）が連覇を重ねるのか、連続2位の座に甘んじてきたSEASIRSが優勝旗を沖縄にもたらしのかが、注目されました。予想通り決勝に進んだ両チームは接戦を繰り広げました＝写真＝が、常にリードを守り抜いたSEASIRSが最終クォーターで突き放し、59－48で念願の初優



勝を飾りました。監督1年目で初優勝に導いた伊波朝一さん（41）は勝因について「ディフェンスの強化をしてきたことです」と語っていました。3位決定戦では「佐世保WBC」（長崎）が「福岡Limitz」を67-18で下しました。

上位2チームは2012年5月に東京都で開催の「内閣総理大臣杯争奪 第40回日本車椅子バスケットボール選手権大会」へ出場権を獲得しました。

第23回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（沖縄）

九州車椅子バスケットボール連盟、九州車椅子ツインバスケットボール委員会主催
財団法人中村裕記念身体障害者福祉財団、当事業団共催

ツインバスケットボールはフリースローサークルの中にもう一つ低いゴールがあるのが特徴です。下肢だけでなく上肢にも障害を持つ人も参加でき、日本で考案されました。高低二つのゴールがあることで、障害の重い選手もシュートを打つことができます。選手は障害の程度によって狙えるゴールが決められているなど、選手一人ひとりが障害の程度に応じて存在感を発揮でき、達成感を感じることができる競技です。



第23回九州車いすツインバスケットボール選手権大会は、九州、沖縄から7チームが参加して1月7、8日、沖縄県沖縄市の沖縄市営体育館で開かれました＝写真。決勝はチームを二つに分けた地元「沖縄フェニックス」の対戦となり、沖縄フェニックスBが76対47で沖縄フェニックスAを下しました。

日頃の練習時から、お互いの障害の程度を把握し、意思を通じ合わせて培った正確なパスが必要なこの競技では、試合に出ていない選手たちも、コート上の仲間に大きな声援と拍手を送っていました。

高 齢 者 の 福 祉

高齢者への暴力防止プロジェクト助成

当事業団主催。厚生労働省、テレビ朝日福祉文化事業団後援

地域、家庭、施設で、高齢者が大切に扱われ、その人らしく安心して生活できる社会になるよう、全国各地で高齢者への暴力・虐待を防ぐ取り組みをしている団体を支援する「高齢者への暴力防止プロジェクト助成」事業を2010年度に創設、11年度から助成を始めました。10年11月から11年1月18日までの募集期間に応募があった47件について審査し、最終的に12団体への助成を決め、5月4日の朝日新聞朝刊生活面で発表しました＝写真。助成額は総額1010万円。助成を受けた団体は以下の通りです。

飯豊町老人クラブ連合会（山形）、サバイバルネット・ライフ（栃木）、エルダーアビューズ・ケア研究会（東京）、日本高齢者虐待防止センター（東京）、杉並介護者応援団（東京）、とりのかいご（神奈川）、地域密着型相談センターとまり木（奈良）、介護支援の会松原ファミリー（大阪）、スマイルウェイ（兵庫）、おかもやま成年後見サポートセンター（岡山）、高齢者虐待防止研究プロジェクト（福岡）、大牟田市社会福祉協議会（福岡）



また、11年度は12年度に実施される事業の募集を11月から始め、12年1月17日の締め切りまでに43件の応募がありました。締め切り後、当事業団職員による直接訪問や電話取材などが進められ、12年5月11日に朝日新聞紙面で発表。助成金約1千万円を贈ります。

地域で、家庭で、施設で、高齢者が大切に扱われる社会。自尊心が守られ、穏やかな毎日を過ごす社会——それはだれもが心豊かに安心して生きていける社会です。高齢者への暴力、虐待のかたちはさまざまです。孤立させたり、孤独な毎日を送っている方に気づかぬふりをしたりするのも社会的虐待なのです。虐待を未然に防ぐきっかけは、あなたの身近にあるかもしれません。

こうした考えから、高齢者を暴力、虐待から守るための、あらゆる活動を応援するのが事業の狙いです。11年度に募集した助成の対象・内容は下記の通りです。

◆12年5月～13年4月までに行われる事業

◆高齢者への暴力、虐待の防止、予防、ケア、教育、啓発に携わる団体、グループの新たな事業（プロジェクト）

◆地域で活動する高齢者サークル、自治会、町内会、高齢者支援グループ、団体などが行う虐待防止につながる事業（プロジェクト）

◆営利を目的としない民間団体・グループ

◆高齢者への暴力防止事業のための資金で、事業の意図や内容、計画に実現性があり、以下のような条件にあてはまるもの

- ・新しく試みる先進的、独創的な事業（プロジェクト）
- ・地域における貢献と広がりが期待できる事業（プロジェクト）
- ・暴力や虐待を受けた高齢者を直接守る活動
- ・暴力や虐待防止につながる取り組み

例）暴力や虐待防止のためのスタッフ養成・研修プログラム、子どもや一般市民に対する啓発イベント、講演会や研修会、地域の見守り活動、啓発や養成・研修のためのガイドライン・テキスト・ガイドブックなどの制作、「虐待」を受けやすい環境を防ぐための、認知症高齢者や家族へのサポート活動、高齢者を社会的虐待から守るための市民のネットワーク作り

高齢者フォーラム「住みなれたまちで最期まで～認知症とともに～」(東京、大阪)

当事業団主催

介護保険の導入に加え、個々の生活を最優先に暮らしてきた団塊の世代が老後を迎え、介護を専門職や専門施設に任せようとする意識も広がり始めています。自分が老後を迎えたとき、どんな生活スタイルを望み、選ぶのか。きっと誰もが「住みなれたまちで最期まで暮らしたい」と願っていることでしょう。その思いをどう実現していくか、講師とともに考える高齢者フォーラム「住みなれたまちで最期まで～認知症とともに～」が5月15日に東京・築地の浜離宮朝日ホール＝写真、同月



22日には大阪市西区の大阪YMCAホールで開かれ、ともに約200人が参加しました。

介護問題に取り組む作家・落合恵子さんをコーディネーターとして、ユニークな地域活動をしている大牟田市の「福岡県高齢者グループホーム協議会会長」の大谷るみ子さん、町ぐるみで福祉に取り組んでいる秋田県二ツ井ふくし会理事長の丸岡一直さん、「在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク」の副会長として福祉改革に取り組む新田國夫さんの3人を講師に迎えました。はじめに大谷さんが「人生の舞台は住みなれた地域」、丸山さんが「心通う福祉 地域とともに」、新田さんが「認知症 これからの姿」と、それぞれのテーマで活動を報告。後半のトークセッションでは、会場からの質問を軸に落合恵子さんの絶妙な司会で各地域の取り組みや、「自己決定権」「看取（みと）り」についてなど活発な意見が交換されました。東日本大震災の避難所や仮設住宅での高齢者の対応、震災から学ぶ点についても話し合われました。

参加者からは「各地域の取り組みがよくわかった」「やり方次第で誰もが住みなれた町で暮らすことができる」「社会を変えていくヒントになった」「勇気をもらった」という声が聞かれました。

朝日高齢者福祉セミナー（名古屋）

愛知高齢者福祉研究会、当事業団主催

「朝日高齢者福祉セミナー」を6月12日、名古屋市中区の朝日ホールで開催しました。介護保険制度改革に伴って低く判定される傾向が顕著になり、非該当になる高齢者が増えてきたと言われる状況のなかで、ちょっとした家屋の修繕から電球の取り換えなど日常生活の細かな不便さに困り、不安をかかえる人たちを地域でどう支えるか、包括的システムの構築が急がれることから、今回は「21世紀の高齢者福祉を考える～ひとりでも地域で安心して暮らせる仕組み～」をテーマに取り上げました。

介護職員や家族、医療・行政関係者、学生ら約160人が参加。基調講演は、愛知県高浜市での福祉事業の取り組みをもとに、前高浜市長の森貞述さんが「高齢者が支える地域力・住民力の創造～国の施策と高浜市の地域づくりから」について語り、地域住民が小・中学校区ごとに計画し、行政が後押ししていくことが重要だと訴えました。

シンポジウムは「ひとりでも地域で安心して暮らせるサポートづくり」がテーマ。大都市近郊の住宅地で自治会が中心になって大工仕事や病院への送迎から買い物のお使いまで高齢者の身近な手助けをする「おたすけ会」活動などの実践活動が報告され、腰を据えて取り組むことの大切さを話し合いました。パネリストは森政弘（コープあいち常務理事）、大澤正（幸田町福祉課主幹）、一口武夫（知多市南粕谷コミュニティー）、小池田忠（名古屋森の里荘自治会長）、コーディネーターは内山治夫（東京福祉大学名古屋キャンパス教授）の皆さん。

高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」（全国18カ所）

当事業団主催

日ごろ外出の機会の少ない、高齢者向けの施設の入居者や利用者らを対象に、一流の音楽家や力士らが訪問し、質の高い楽しいひとときをお届けする「ゆうゆうビジット」。3年目となっ

た11年度は、全国の特別養護老人ホームや介護老人保健施設など計18カ所を、6組の出演協力者に訪問していただきました。

1回目は5月16日。歌手のおおたか静流（しずる）さんと、音楽とマジックで幅広く活動する大友剛さんが、新潟県佐渡市の介護老人保健施設「相川愛広苑」を訪れました。入居者が一緒に歌えるようにと、おおたかさんが選んだ「春が来た」や「ぞうさん」「どんぐりころころ」など11曲を、大友さんのピアノに合わせてみんなで熱唱。おおたかさんが民謡「佐渡おけさ」を歌おう、と声をかけると、踊りを披露してくれる人もいて、おおたかさん、大友さんと一緒に踊りの輪が広がりました。大友さんのマジックにも驚いた様子で、歓声が上がりました。

6月3日にはバイオリニストの千住真理子さんが大阪府寝屋川市の特別養護老人ホーム「寝屋川石津園」へ。千住さんは「今日はいろいろな国を旅行しているような気持ちになれるように」と、さまざまな国の作曲家の代表曲を解説付きで披露。ふだんはクラシックしか演奏しない千住さんが「皆さんがよく歌われている『ふるさと』を弾きますので、一緒に歌ってください」と呼びかけ、入居者ら約130人の歌声が会場に広がりました。

11月17日にはバイオリニストの川島成道さんが北九州市の2施設を訪問。午前中は介護老人福祉施設「戸畑大谷園」で利用者ら約120人を前にトークを交え、バッハや、アイルランド民謡、日本の「さくらさくら」をアレンジした「さくら変奏曲」など7曲を披露し、メロディーを口ずさむ人も。副園長の神田久江さんは「みんなでこの日を楽しみにしていました。素晴らしいコンサートをありがとうございました」。川島さんは午後は介護老人保健施設「松恒園」で演奏、入所者ら約150人はうっとりとして聴き入っていました。間近でバイオリンを聴くのは初めてという86歳の女性は涙ぐみながら「胸に響きました」。音楽が好きな施設長の鳥巢孝俊さんも「音色に引き込まれる感動を覚えました」。園で演奏会はよく催すが、一流のバイオリンは初めてとのことでした。

11月29日に北九州市の特別養護老人ホーム「シルバー・サン・ホーム」を、高砂部屋の朝乃丈（三段目）と朝興貴（三段目）の力士2人とマネジャーの松田哲博さん（元一ノ矢）が訪問しました。松田さんの相撲甚句から始まり、2人の力士が相撲の決まり手を披露、リクエストに応じて、「小股すくい」など、珍しい技も見せました。激しい立ち合いと体のぶつかる弾ける音、力士が転がる迫力に、どよめきの声が上がっていました。



力士の「きぐるみ」を付けた男女の職員が挑み＝写真、会場は拍手や歓声で盛り上がりました。写真撮影では、両力士が会場を回り、一人一人に声をかけ、握手を交わし、個別に写真を撮りました。ちゃんこ鍋も振る舞われ、入居者らは日ごろ味わうことが出来ない、相撲部屋の味に舌鼓。担当職員は「お年寄りの目の輝きが違う」と話していました。

世界を舞台に活躍するギタリスト・福田進一さんが11年度から新たに加わり、1月15日に愛知県瀬戸市の特別養護老人ホーム「樹の里」を訪れました=写真上。約70人が入所しており、ショートステイやグループホームも併設された施設ですが、車いすの方も含め約80人が食堂に集まりました。

会場には歓迎の飾り付けがされ、ステージわきに大型テレビが用意されていました。演奏予定の曲目についてインターネットなどで集めたコンサートの模様をDVDに録画し、参加のみなさんに見てもらえるようにしたスタッフ苦心の準備です。福田さんもこの趣向に「より楽しんでもらえる工夫だ」と感心しきりの様子でした。

演奏はバッハのコラール前奏曲「主よ、人の望みの喜びよ」でスタート。難しい印象を持たれないかと施設スタッフはちょっと心配していましたが、福田さんの技巧と熟練の音色に魅入られるように聴き入る姿が目につきました。また、タレガの「アルハンブラの思い出」や、かつてのフランス映画「禁じられた遊び」で使われたギター曲の定番「作者不詳：愛のロマンス」、それに「横尾幸弘：『さくら』の主題による変奏曲」など、工夫を凝らせて選んだ多彩な名曲が次々と演奏され、伸びやかに流れる音楽の中に浸りきる雰囲気。福田さんはエピソードなども交えて曲を解説、ざっくばらんな語り口に和やかなサロンコンサートになっていました。

ひときわ熱心に聴いていた72歳の女性は「じっくり演奏を楽しみました。ギターの音色もきれいで心地よかったです。感謝しています」。演奏の後、福田さんは「静かに聴いてもらい、ギターの良さがわかっていただけたのでは」と話していました。

俳優の日色ともゑさん、ポルトガルギターとマンドリンのアコースティックユニット・マリオネットの皆さんは1月17日、和歌山県伊都郡九度山町の特別養護老人ホーム「友愛苑」を訪問しました=写真下。マリオネットによる演奏で開演、ポルトガル民謡「暗いはしけ」や、西洋の船が日本にやって来た時のイメージで作った曲「南蛮渡来」が披露されました。懐かしい歌謡曲「たそがれのビギン」や1960年代の映画

「日曜はダメよ」のテーマ曲が流れると、手拍子をしたり、大きくうなずいたりする人も多く、一曲ごとに大きな拍手が送られました。

続いて、日色さんが「車のいろは空のいろ」の中から「白いぼうし」という物語を朗読。茨木の子さんの「マザー・テレサの瞳」「わたしが一番きれいだったとき」の朗読では、じっと耳を澄ませて聴く姿が見受けられました。終盤は会場が一つになって「ふるさと」や「蘇州夜曲」を合唱。「皆さんがうれしそうで、こちらもうれしくなりました」と日色さんも話していました。



11年度の全訪問先は次の通りです。10年2月に始まった「ゆうゆうビジット」は、通算で31回を実施。ほとんどが朝日新聞の地域面で紹介されました。

訪問者	訪問日	地域	施設名
おおたか静流・大友剛	5月16日	新潟県佐渡市	介護老人保健施設 相川愛広苑
千住真理子	6月3日	大阪府寝屋川市	特別養護老人ホーム 寝屋川石津園
川島成道	6月22日	兵庫県加古川市	特別養護老人ホーム こすもす園
川島成道	6月11日	愛知県名古屋市	特別養護老人ホーム 楠清里苑
川島成道	6月11日	愛知県春日井市	住宅型有料老人ホーム ウェルライフガーデン高蔵寺
高砂部屋	7月26日	愛知県あま市	特別養護老人ホーム あま恵寿荘
日色ともゑ・マリオネット	8月26日	埼玉県坂戸市	特別養護老人ホーム シャローム・ガーデン坂戸
福田進一	8月30日	京都府京都市	高齢者福祉総合施設 ももやま
高砂部屋	9月26日	神奈川県逗子市	介護老人保健施設 逗子清寿苑
千住真理子	11月9日	宮城県仙台市	特別養護老人ホーム 水泉荘
川島成道	11月17日	福岡県北九州市	介護老人保健施設 松恒園
川島成道	11月17日	福岡県北九州市	介護老人福祉施設 戸畑大谷園
高砂部屋	11月29日	福岡県北九州市	特別養護老人ホーム シルバー・サン・ホーム
福田進一	1月15日	愛知県瀬戸市	特別養護老人ホーム 樹の里
日色ともゑ・マリオネット	1月17日	和歌山県九度山町	特別養護老人ホーム 友愛苑
おおたか静流・大友剛	1月23日	滋賀県大津市	特別養護老人ホーム 近江舞子しょうぶ苑
高砂部屋	3月26日	奈良県橿原市	特別養護老人ホーム 橿原の郷
高砂部屋	3月27日	大阪府泉大津市	ローズガーデン条南苑デイサービスセンター

朝日福祉ガイドブック「認知症とともに ～家族が認知症になったら～」

高齢の認知症患者は、全国でざっと200万人と推計されています。近い将来、高齢者のほぼ1割が認知症という社会が来るとも言われ、他人事ではなくなりました。認知症は特別な病気ではありません。だれにでも可能性がある病気なのです。「認知症になってもいつまでも自分らしくいたい」「前向きに生活を大切にしたい」。そんな認知症の人と家族の願いに寄り添う本「認知症とともに ～家族が認知症になったら～」(当事業団企画・発行)を作りました＝写真。

①認知症の診断から治療・介護サービスまで②「認知症」とは③認知症ケア④施設への入所や看取りまでの4章にわかれ、必要な時に必要な知識と注意点、アドバイスがわかりやすいイラスト

入りでまとめてあります。監修は滋賀県守山市で「もの忘れカフェ」を開設している藤本クリニックの藤本直規さんと奥村典子さん。B5判88ページ、定価千円。



福 祉 教 育 ・ 福 祉 啓 発 推 進

第7回自殺防止事業「自殺!? ちょっと待って!」—思いとどまってもらうために—(福岡)

福岡いのちの電話、当事業団主催。朝日新聞社、九州朝日放送、福岡県、福岡市後援
大同生命厚生事業団協賛

2010年の自殺者は、警察庁の発表によると、3万1690人（前年比1155人減）で、1998年から13年連続で3万人を超える深刻な事態が続いています。男性が2万2283人（70%）、年代別では50代が最多の5959人で、40～60代が全体の54%を占めています。一方、若年層では、20代は3240人、30代が4596人となり、減少傾向にあります。自殺原因は重複がありますが、昨年同様に「健康問題」が最多で47%。2番目は「経済・生活問題」22%と続きますが、支援策に効果があったためか、「多重債務」と「事業不振」での自殺は前年より2割程度減り、昨年に比べ11%減少しています。

死を考えて、孤立している人たちが、自らの命を犠牲にせずすむために、今、私たちにできることは何なのかを考える講演会を、前年に引き続き、10月15日に福岡市博多区中洲の福岡明治安田生命ホールで開催。医療従事者や自殺で家族を失った遺族ら約200人が参加しました。

第1部は南蔵院住職の林覚乗さんが「心ゆたかに生きる」と題して講演。心の持ち方や、人とのつながりを説き、「人を支えるため、自らが日ごろ心を整えることも大事」と呼びかけました。

第2部は東日本大震災をテーマに「生きること、支えること～東日本大震災に学ぶ」のパネルディスカッションで、林幹男さん（福岡いのちの電話理事長）をコーディネーターに、ジャーナリストの稲田二郎さん、平野千恵子・福岡県精神保健福祉センター参事、田上文蔵・福岡いのちの電話理事が震災地での現状や被災者の今後の心の動きに合わせたケアや求められている支援態勢のあり方について話し合いました。また、いのちの電話の「震災ダイヤル」にかかってきた被災者の声が田上さんから紹介されました。

東海グループホームスタッフ研修会（名古屋）

東海グループホームスタッフ研修会主催。当事業団後援

東海3県のグループホームの障害種別を超えたネットワークづくりを目指した研修活動に取り組み、6月4日に名古屋市の朝日ホールで開催された研修会には約50人が参加。11年度は「よりそう」を年間テーマとして考えていくことにし、知的障害者施設や更生施設で働いた経験を持つ美作大学社会福祉学科准教授の薬師寺明子さんと語り合いました。

12年1月14日には朝日ホールで講演会を開催しました。日本グループホーム学会代表でもあり愛知県障害者相談支援スーパーバイザーの山田優さんが「本人の思いを知る」のテーマで話し、約80人の参加者たちが支援者として必要なことを一緒に考えました。

遺贈・遺言セミナー「老いじたく～あなたの財産を未来に」(東京、大阪、福岡)

当事業団主催

大切な財産を世の中のために役立てたいという希望に応える「遺贈・遺言セミナー」を東京、大阪、福岡の3会場で開催、合わせて約130人が参加。子どもがいない夫婦や単身者が他界した後、残された財産をトラブルなく、どう生かすかをテーマに遺贈や遺言の書き方について学びました。

10月17日には大阪市北区中之島の大阪市中央公会堂(小集会室)で開きました=写真上。講師は、高齢者の財産管理や成年後見制度、相続問題にも詳しい東京弁護士会の中山二基子さん。会場には30代から90代の男女80人が参加、具体的な事例を挙げて進められる話にメモをとる姿が目立ちました。東日本大震災の被災者が遺言を書いていたため、トラブルを回避できた事例などを交え、「お子さんがいない人には遺言が必要」「遺言は元気で気力も体力も有るうちに書くことが大事」など、中山さんの話になぜか参加者もいました。財産を公益法人などに贈る遺贈については「遺贈先について事前によく調べる」「遺留分には配慮が必要」「税金について専門家へ相談しておく」などが指摘されました。終了後のアンケートには「たいへん役に立った」「わかりやすかった」「またセミナーを開いて欲しい」という声が多数、寄せられました。



11月14日には福岡市の福岡朝日ビル会議室でセミナーを開き、福岡を中心に長崎、山口から20人が参加=写真下。講師は、遺贈・相続財産管理・成年後見問題に取り組んでいる、石井将弁護士(福岡県弁護士会)にお願いし、遺贈と相続について「何らの相続対策もしないで、この世を去ることが、かえって『罪』を残すことにならないか」「相続が『争族』にならないためにも遺言書は必要」と具体的な事例を挙げながら、わかりやすく話していただきました。遺言は「元気なうちに、老後の生き方も考えて書く」「相続財産の使途、配分先を検討し、専門家のアドバイスを受けて、しっかりした遺言を残す」ことが重要であるとの話もありました。参加者の関心も高く、多くの質問が寄せられました。石井弁護士にはセミナー終了後に個別の相談にも応じて頂きました。セミナーのアンケートでは「役に立った」「わかりやすかった」と好評をいただきました。



11月18日には朝日新聞東京本社会議室で、中山さんを講師に約30人が相続や遺言、成年後見制度などについて学びました。東京での開催は今回が4回目になりました。

セミナーでは小冊子『遺贈』 遺産の寄付をお考えのみなさまへ(A5判、20ページ)を参加者に配布しました。10年度のセミナーで使った資料をもとに、遺贈の仕組みや遺言書がない場合のデメリットなどをわかりやすくまとめたもので、ご希望の方に無料でお送りしています。

医療と公衆衛生

第63回保健文化賞（東京）

第一生命保険株式会社主催。厚生労働省、当事業団など後援

保健衛生の向上や、向上に寄与した研究・発見をした団体、個人に贈られる第63回「保健文化賞」の贈呈式が10月25日、東京都港区のホテルで行われ、10団体と個人5人に賞金（団体各200万円、個人各100万円）と朝日新聞厚生文化事業団賞などが贈られました。

この賞は1949年に制定されて以来、この分野の民間の表彰事業として最も定評のあるものです。受賞団体・個人は次の通りです。（敬称略）

【団体】認知症の人と家族の会山梨県支部「あした葉の会」、小山ライオンズクラブ（静岡県）、浜松外国人医療援助会（同）、日本歯科大学新潟病院在宅歯科往診ケアチーム、MCサポートセンター「みっくみえ」（三重県）、石川県歯科医師会口腔衛生センター、大久野島毒ガス傷害研究会（広島県）、宗像医師会訪問看護ステーション（福岡県）、長崎県ATLウイルス母子感染防止研究協力事業連絡協議会、沖縄県南城市

【個人】助産師・伊藤祝子（宮城県）、結核予防会複十字病院長・工藤翔二（千葉県）、万成病院名誉院長・大森文太郎（岡山県）、新心会馬原病院長・馬原文彦（徳島県）、佐賀医科大名誉教授・香月武（佐賀県）

アサヒベビー相談室（大阪、高槻、大津）

当事業団主催

病気や栄養相談、発達障害など、育児に悩む親のため、デパート内に開設している育児相談室で医師や歯科医師、栄養士などの専門家が無料で相談に乗っています。

1957年に開設した近鉄百貨店阿倍野店（大阪市）は利用者も多く、今年度から新たに母乳相談やメンタルヘルスケアの講座も開設しました。大阪市立大学医学部附属病院小児科の協力を得て、気軽に相談できる場として好評です＝写真。4月と9月には保育の専門家によるパネルシアターやバルーンアート、離乳食講習会など、親子で参加できるイベントも開催しました。

西武百貨店高槻店（高槻市、1974年開設）は毎週木曜日、小児科医が交代で相談にあたり、西武百貨店大津店（大津市、2004年開設）は第1・3日曜日に専門相談員が子育ての先輩の立場からアドバイスしています。



各相談室の利用者数は次の通りです。

- ・近鉄阿倍野店 493人（1回平均5人）、ミニ講演会 202人
- ・西武高槻店 345人（1回平均約7人）
- ・西武大津店 63人（1回平均約3人）

生活習慣病市民公開講座（北九州）

平成紫川会主催。北九州市、当事業団共催

財団法人平成紫川会は、公益法人として急性期疾患の治療を中心とした高度医療を提供し、同時に地域医療の確保と質の向上を図るとともに、公衆衛生活動を実施しています。当事業団は、前年に引き続き平成紫川会、北九州市とともに、地域住民の福祉の向上に寄与することを目的に、最新の医療技術や健康情報を提供する「生活習慣病市民公開講座」を開催しました。

第1回は、6月の「大切な人が突然倒れた時、あなたは何かができますか？」でスタートし、12年2月の「狭心症と心筋梗塞（こうそく）のお話」まで計4回の講座を開きました。また、3月に行われました、市民講座「おくすりと上手につきあう方法」も共催しました。計5回の講座は無料で、延べ872人が参加し、熱心に耳を傾けていました。

【リバートーク市民公開講座】

6月 4日 「大切な人が突然倒れた時、あなたは何かができますか？」

小倉記念病院 中島 研・救急部長

（アジア太平洋インポートマート）

10月 1日 「大切な人が突然倒れた時、あなたは何かができますか？」

同病院 中島 研・救急部長

（KMMビル大ホール）

10月15日 「あなたにもできる脳卒中の予防と介護」

同病院 中原一郎・脳卒中センター長

（北九州国際会議場）

2012年

2月 4日 「狭心症と心筋梗塞のお話」

同病院 延吉正清・院長

（北九州国際会議場）

【市民講座】

3月17日 「おくすりと上手につきあう方法」

同病院 増田和久・薬剤部長

（アジア太平洋インポートマート）

チャリティー事業

朝日チャリティー美術展（名古屋、大阪、東京）

当事業団、朝日新聞社主催

全国の美術家や各界著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てる「朝日チャリティー美術展」を名古屋、大阪、東京の3会場で開催しました。今年度も文化勲章受章者や人間国宝を含む画家、工芸・彫塑（ちょうそ）家、書家、宗教家、茶道家、各界の著名人ら延べ約2900人の方々にご協力をいただき、寄贈された作品は日本画、洋画、工芸、彫塑、書、色紙など3500点を超えました。

●名古屋展

第58回名古屋展は11年12月8日から10日まで、名古屋市中区・栄の丸栄百貨店で開催し、約900人の作家からご協力いただいた千点近い作品を入札と即売で販売しました＝写真。

会場は前回から利用することになった丸栄本店催事場フロアで、少しでも作品が見やすいように展示を工夫、変更しました。お客様の戸惑いを心配しましたが、毎回楽しみにされている愛好者の期待は変わることなく、陶工芸や日本画、洋画など各ジャンル展示コーナーでは人波ができました。これまでにない作家、作品の展示に加え、3年目となる入札は厳選して約70点に絞り込みました。厳しい経済状況や年金問題など不安いっぱいの世情ながら、売り上げは昨年を上回り、長年の美術展ファンの期待に応えることができたとの手応えもありました。



●大阪展

85回目の大阪展は12月23日から25日まで大阪・なんば高島屋で開催しました。約千人の作家から約1300点の寄贈をいただき、入札と即売で販売しました＝写真。

昨年に引き続き、62人の作家から73点の寄贈を受け、特別コーナー「イラストレーター・絵本作家・漫画家」を入札会場に設け、たくさんの方の入場者の注目を集めました。会場には若い世代や親子連れのほほ笑ましい姿もあり、お気に入りの絵画に見入っていました。3日間を通して、4643人の来場があり、不景気にもかかわらず、昨年を上回る売り上げがありました。



●東京展

87回目の東京展は3月2日から5日まで東京都中央区の松屋銀座で開催し、入札と即売で約1500点を販売しました＝写真。

準備の段階で東日本大震災で被災された方への思いがつづられた手紙が作品に同封されて届くことなどが

あり、作品をご寄贈くださった皆様の温かいお気持ちと、私たちが果たすべき責任を例年以上に感じての開催となりました。売り上げは、皆様の力作のおかげをもちまして、昨年を上回ることができました。

Next Art展 次世代のアートを担う若手作家の支援を目指す「Next Art展」は2度目の開催となり、応募作約231点の中から、選考を経て推薦作品に決定した32点を展示、入札販売しました。

(チャリティー美術展に作品を出展していただいた方々のお名前は56～66ページに、Next Art展の推薦作品の制作者は66ページに掲載しました)



第61回メサイア演奏会（東京）

当事業団、朝日新聞社主催。東京藝術大学音楽学部協力、JR東日本特別協賛

1951年から歌い継がれてきた「藝大メサイア」を12月21日、東京・上野の東京文化会館大ホールで開きました＝写真。大塚直哉さんの指揮で藝大フィルハーモニアと学生ら約200人がヘンデルのオラトリオ「メサイア」（救世主）の全曲を披露。古楽奏法の発想を採り入れた演奏や「ハレルヤコーラス」の大合唱で2200人の聴衆を魅了しました。不況の影響からクラシックコンサートはチケットがなかなか売れないと言われていますが、多くの長年のファンに支えられている「藝大メサイア」のチケットは、今回も完売となりました。



一流プロへの登竜門とも言われるソリストは、毎年9月に行われる学内オーディションにより選考されます。今回、ソリストに選ばれたのは、ソプラノの藤井冨さん、アルトの村松稔之さん、テノールの村元恒徳さん、金山京介さん、バスの井口達さん、池内響さんの6人でした。ヘンデル作曲の「メサイア」は、キリストの生涯と復活、栄光を題材にしたオラトリオ（聖譚曲）で、「社会福祉の目的以外に演奏を認めない」というヘンデルの遺志をくみ、現在も世界中

の多くのチャリティーコンサートで演奏されています。

半世紀以上にわたり、藝大メサイアを継続することができたのは、社会貢献の一環として協力、出演していただいている東京藝術大学音楽学部の教員、学生のみなさんの力によるものです。1997年からは音楽学部だけでなく、美術学部の先生方のご協力も得て、ポスターやプログラムを制作しています。今年は東京藝術大学大学院の教授である藪内佐斗司さんにご協力いただきました。

親子で楽しむクリスマスコンサート（東京）

当事業団主催

毎年恒例の「親子で楽しむクリスマスコンサート」を12月23日、東京千代田区の有楽町朝日ホールで開催しました。午後1時からの上演で、家族連れら約600人がクリスマスのひと時を楽しみました。

2010年度の大好評に引き続き、中川ひろたかさん（シンガー・ソング絵本ライター）率いるバンド「ON'S」が、11年度も再び出演しました。「世界中のこどもたちが」で幕を開け、「にじ」や「ともだちになるために」、また野々歩さんのCMソングなど計12曲を、中川ひろたかさん、大友剛さん（ミュージシャン、マジシャン）、野々歩さん（ミュージシャン）の3人で披露しました。

演奏の間に、中川ひろたかさんが会場の子どもたちに語りかけながら、自作の「おたんじょう月絵本」12カ月分の朗読を入れてコンサートは進み、大友剛さんのピアノの演奏と野々歩さんの優しい歌声に会場は包まれ、なごやかなコンサートになりました。

第53回各派合同三曲演奏会（大阪）

当事業団主催

11月26日、大阪市中央区のNHK大阪ホールで開催しました＝写真。箏、三絃、尺八の第一線で活躍中の各派の協力があり、当日は12社中、約400人が出演しました。出演社中と曲目は次の通り（敬称略、出演順）。



須山知行・中島警子社中「秋韻」▽中扇喜琇鳳社中「新高砂」▽箏曲和光会・琴古流玉川社「旅情」▽菊塚春秋会「新松づくし」▽菊武潔社中「秋の曲」▽箏曲栄琴会「相生の曲」▽大阪正絃社「編曲小鍛冶」▽都山流大阪府支部「本曲新生」▽八千代会「三つの景色」▽菊田歌雄社中「譬水の歌」▽酒井典彦社中「さくら四重奏」▽新都山流大阪府支部「落葉調」

第59回洋舞合同祭（尼崎）

当事業団主催

朝日新聞チャリティー「洋舞合同祭」を12月25、26日、尼崎市のアルカイクホールで開催しました＝写真。

この合同祭は1946（昭和21）年、終戦直後の混乱の中、歳末助け合いを目的に「関西舞踊家集団公演」として始まりました。



関西洋舞界の皆さんのご協力により、モダンダンスやクラシックバレエの華麗なプログラムが繰り上げられました。今回は12団体の739人にご出演いただきました。

出演団体は次の通り（出演順）。

【25日】

（児童の部）法村友井バレエ学校、江川バレエスクール、大阪バレエアカデミー、波多野澄子バレエ研究所

（大人の部）法村友井ジュニアバレエ団、波多野澄子バレエ研究所、大阪バレエカンパニー、江川バレエスクール

【26日】

（児童の部）宝塚コドモアテネ、西野バレエ団北村眞子バレエスタジオ、岡本バレエスクール、江口乙矢・須美子・満典舞踊研究所、野辺恵バレエスタジオ

（大人の部）スズキ・バレエアート・スタジオ、MR B松田敏子リラクゼーションバレエ、畑節子バレエ学院

協賛能（大阪）

能楽協会大阪支部、当事業団主催

「歳末助け合い」の協賛能を12月23日、大阪府中央区の大槻能楽堂で開催しました。関西で活躍する観世、宝生、金剛、金春、喜多の五流がそろい踏み、さらに狂言の大蔵流、和泉流が出演。歳末恒例の能舞台上、今回は能「清経」「巻絹」「安達原」「黒塚」に加え、狂言「魚説法」が演じられました。午前と午後の2回公演でしたが、いずれも能楽堂の前には開演待ちの列ができ、関心の高さをうかがわせました。後日、収益金50万9963円の寄付を受けました。

第58回各流合同茶会（大阪）

当事業団主催

茶道各流の宗匠たちの協力を得て、今年度も3月24、25日の2日間、「第58回各流合同茶会」を、大阪美術倶楽部（大阪市中央区今橋）で開催しました＝写真。

12人の宗匠が2日に分かれて懸釜をし、来場者をもてなしました。初日は雨模様でしたが、小学生や中高生の参加もあり、両日で延べ約4700人が、好みの茶席でお手前を楽しみました。懸釜担当の宗匠は以下の通り。
（敬称略・順不同）



【24日】表千家＝木村雅基▽裏千家＝杉本宗鴻▽武者小路千家＝佐伯江南斎▽藪内流＝藪内流大阪支部五葉会▽遠州流茶道＝筍新会▽習軒流＝坂田柏苑

【25日】表千家＝森泰輔▽裏千家＝杉本宗璋、村司宗紫▽武者小路千家＝木津宗詮▽古石州流＝本庄扇宗▽花月菴流＝花月菴流大阪支部

《協賛宗匠》表千家＝表千家同門会大阪支部、生形貴重▽裏千家＝矢野宗善、中尾宗勢▽武者小路千家＝芳野宗春、三宅守真▽藪内流＝藪内流随竹会▽宗徧流＝宗徧流大阪支部▽庸軒流＝柿本梅軒▽松尾流＝上西宗慶▽松風清社＝泉谷亘風▽一茶菴流＝佃一輝

第57回歳末朝日チャリティー茶会（名古屋）

当事業団主催。名古屋美術倶楽部協賛

歳末朝日チャリティー茶会を地元8流派の家元、社中の協力で、12月11日に名古屋市中区の名古屋美術倶楽部で開催しました＝写真。

第一席（残月の間）と第二席（葵の間）の茶室で、各4流派が交代でお手前を披露しました。1枚の茶券で2席分の茶の湯を楽しむことができるうえに、気軽な雰囲気ながらも和服姿の女性たちで華やぐなか、約千人が堪能しました。

＜協力宗匠＞（敬称略）

第一席 [表千家]＝谷口宗清、柴田昭和、棚橋昭雄 [久田流]＝加藤久道
[宗徧流]＝寺尾宗康 [遠州流]＝丸山宗翠



第二席 [裏千家]=庄司宗文、神谷宗銀
[松尾流]=松尾宗典、尾関宗般

[尾州久田流]=下村瑞晃
[志野流]=蜂谷宗玄、綱島章、福島和志

第49回チャリティー大茶会（北九州）

茶道裏千家淡交会北九州支部主催。当事業団など後援

第49回チャリティー大茶会が9月3日、4日に北九州市小倉北区の小倉井筒屋で開かれました。

東日本大震災の被災者を支援すると位置づけた茶会では、待合所に大震災の報道写真が掲示され、お茶の菓子には震災被災地の和菓子が添えられました。女性客を中心に大勢が訪れ、平穏なひとときを楽しんでいました。主催者の「堅苦しくなく楽しめるので、気軽に来場して欲しい」との思いと「我々にできることはお茶をたてること。東北の被災者のみなさんに役立てれば」の思いが通じ、2日間で昨年を上回る、約1400人が来場しました。後日、同支部の大森宗智幹事長から、収益金の一部30万7149円が東日本大震災救援募金として寄せられました。



彩季会チャリティーバザー（東京）

彩季会主催。当事業団後援

6月24日から25日の2日間、東京都・杉並区の彩季会（八尾緑代表）で、恒例のチャリティーバザーが開かれました。会場では、会員の手作りの小物やアクセサリ、バッグなどが多数展示即売され、多くの来場者でにぎわいました。今年の売り上げは、東日本大震災救援募金として当事業団に寄託されました。

杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会（東京）

財団法人杵勝会主催。当事業団後援

古典長唄演奏家の集まり「杵勝会」（八代目杵屋勝三郎会長）の「歳末チャリティー長唄演奏会」が12月18日、東京都千代田区の有楽町朝日ホールで開かれました。演奏会には八代目家元の杵屋勝三郎さんをはじめ、100人を超す会員が出演。「喜撰」「楠公」「春の調」「勸進帳」など16曲を披露しました。収益20万円が当事業団へ寄付されました。

その他の事業

西部朝日福祉助成金（九州、山口）

当事業団主催

2011年度が最後となった「西部朝日福祉助成金」は、地域の福祉向上に取り組んでいる小規模福祉作業所やボランティアグループなどの活動を支援するため、九州、山口の9団体に255万6千円を贈りました。毎年、年末・年始に実施している「朝日ふれあい募金」などを財源にしています。

助成金の申込団体募集は11年2月2日付の本紙朝刊の社告でスタートし、3月25日の締め切りまでに60団体から応募がありました。2次にわたる社内選考と各県・市の社会福祉協議会や朝日新聞西部本社の総・支局の協力で現地調査を実施し、9団体を選考しました。6月20日付朝刊特集面で、その活動を紹介しました＝写真。贈呈式は福岡県分を6月28日に西部本社で、その他は各県庁所在地の朝日新聞総局などで行いました。



贈呈の9団体と主な購入機器は次の通りです。

- 【山口県】 社会福祉法人「星のかくれんぼ」(下関市) = ラベルプリンター、レーザースキャナー
- 【福岡県】 NPO法人「車椅子レクダンス普及会」(久留米市) = 教材費、旅費・ガソリン代▽
手作り工房紫陽花(筑紫野市) = 職業用ミシン▽NPO法人「福祉作業所 otto」(福岡市) = ミシン、紙すき用ミキサー▽ミツバチサポートクラブ(北九州市) = 七宝絵の具・スナッグゴルフ、研究冊子作成費など
- 【長崎県】 NPO法人「長崎県難病連絡協議会」(長崎市) = プロジェクター、スクリーン
- 【熊本県】 NPO法人「宇城きぼうの家」(宇城市) = インバーターエアコン一式
- 【大分県】 多機能型事業所おおいた(大分市) = 座卓・遊具・DVDプレーヤーなど
- 【宮崎県】 NPO法人「ふれあいスポットかがやき」(日南市) = ビニールハウス、肥料・土代など

福祉助成金事業は1986年、事業団統一事業として「朝日福祉助成金」が創設されました。1998年から西部管内の独立事業として「西部朝日福祉助成金」に名称を変更して継続してきました。25年間、数多くの団体から応募をいただき、これまでに448団体に助成金支援を行ってきましたが、11年度を最後に「西部朝日福祉助成金」事業は終了させていただきました。

このほか春季には地域で、社会福祉活動を継続的に続けている団体を支援するための助成を続けています。運営費として活用できるもので、11年度は福岡いのちの電話(福岡市)▽北九州いのちの電話(北九州市)▽福岡県交通遺児を支える会北九州総支部(同)の3団体に計45万円を贈り、12年3月14日に朝日新聞西部本社で贈呈式を行いました。

台風12号被災者救援募金

紀伊半島を中心に11年9月4日の台風12号による豪雨で大きな被害を受けた被災者救援のため、当事業団は9月10日から10月15日まで、朝日新聞社と協力して募金の呼びかけを行いました。朝日新聞の読者の皆様をはじめ、全国各地から寄せられた「台風12号被災者救援金」は、全国から422件、総額972万7254円に上りました。救援金は特に被害の大きかった和歌山、奈良、三重各県の日本赤十字社支部に贈り、被災者にお届けしました。

ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

(写真は、土砂崩れや浸水で大きな打撃を受けた和歌山県那智勝浦町市野々地区。手前の濁流が町長の自宅をのみ込んだ＝9月4日、朝日新聞社へりから、小杉豊和撮影)



主な後援・協賛・協力事業一覧

日程	催事		主催者	会場
本部（東京）				
3/27~8/28	第5回全東京ろう社会人軟式野球TDリーグ大会	後援	全東京ろう社会人軟式野球連盟	新荒川大橋球場（東京・北区）ほか
4月~12月	第11回全国障害者芸術・文化祭埼玉大会	後援	厚生労働省、埼玉県、さいたま市	埼玉県立近代美術館、彩の国さいたま芸術劇場
5/17	第2回だれもが使えるウェブ・コンクール&シンポジウム	後援	ハーモニー・アイ、だれもが使えるウェブ・コンクール実行委員会	東京・毎日ホール
6/3~12、17~26、7/1~10、15~24	人間国宝・奥山峰石金工60周年記念展	後援	人間国宝・奥山峰石金工60周年記念展実行委員会	東京・北とぴあ、山形県郷土館、酒田市美術館、新庄市民プラザ
6/8~12	第26回全国聴覚障害者写真コンテスト	後援	全日本ろうあ連盟	佐賀市文化会館
6/10	日本聾話学校チャリティー映画会	後援	日本聾話学校	東京・日比谷公会堂
6/18・19	第27回DP 日本会議全国集会 in 沖縄	後援	DP 日本会議ほか	沖縄県市町村自治会館
7/1~27	チャリティーアートボックス vol.1	後援	日本ガラス工芸協会	ギャラリー Shin Eii（東京・豊島区）
7/8・9	第60回関東聾学校陸上競技大会	後援	関東聾学校体育連盟	静岡・愛鷹広域公園多目的競技場
7/26	紺野美沙子の朗読座~ベルバットのうさぎ	後援	Off-Broadway-JAPAN	東京・サントリーホール
7/27~29	第60回関東聾学校バレーボール大会	後援	関東聾学校体育連盟	茨城・ひたちなか市総合運動公園体育館
8/12~14、19~21、26~28ほか	朝日キャンプ	後援	NPO 朝日キャンプ	群馬県片品村武尊牧場キャンプ場ほか
8/15~18	第38回全国ろう学生の集い	後援	全日本ろう学生懇談会	栃木県青年会館
8/21	夏の交通遺児家庭を励ます会	後援	交通遺児等を支援する会	神奈川県相模原市・大日野原農園
8/24~26	第62回全日本少年野球大会	後援	厚生労働省、全日本少年野球連盟、全国児童自立支援施設協議会、京都府ほか	京都府立山城総合運動公園ほか
9/3	東日本復興支援チャリティー「正秋バンド愛のサウンドフェスティバル」	後援	東京光の家	東京・オリンパスホール八王子
9/4	第24回全国障害者将棋大会	後援	全国障害者将棋大会実行委員会	北とぴあ（東京・北区）
9/4	第15回電動車椅子サッカー関東大会	後援	関東ブロック電動車椅子サッカー協会	埼玉・熊谷スポーツ文化公園
9/14	第48回東京都老人クラブ芸能大会	後援	東京都老人クラブ連合会	文京シビックホール
9/22	日本点字図書館・秋のチャリティー映画会	後援	日本点字図書館	なかのZERO（東京）

日程	催事		主催者	会場
9/30	第41回朗読録音奉仕者感謝の集い	後援	鉄道弘済会、日本盲人福祉委員会	東京・弘済会館
9/30~10/2	第36回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会	後援	全日本ろう社会人軟式野球連盟	サーティフォー相模原球場ほか
10/5~7	第38回国際福祉機器展 H. C. R. 2011	協賛	全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会	東京ビッグサイト
10/8~10	言友会創立45周年記念全国大会・吃音ワークショップ2011in千葉・佐倉	後援	千葉言友会、全国言友会連絡協議会	佐倉草ぶえの丘
10/16	第8回本間一夫記念チャリティコンサート「マダマ バタフライ」	後援	日本点字図書館	津田ホール（東京・渋谷区）
10/18・19	第4回全国精神保健福祉家族大会ーみんなねっと香川大会	後援	全国精神保健福祉会連合会、香川県精神障害者家族会連合会	サンポートホール高松
10/22・23	きょうされん第34回全国大会 in しが	後援	きょうされん	滋賀県立劇場びわ湖ホール
10/23・24	第37回みんなの音楽会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会	浴風会大ホール（東京・杉並区）
10/29	第43回愛隣会チャリティバザー	後援	愛隣会	愛隣会（東京・目黒区）
10/30	交通遺児等を支援する会第8回チャリティバザー	後援	交通遺児等を支援する会	エステック情報ビル前広場（東京・西新宿）
11/1~3	サイトワールド2011	後援	日本盲人福祉委員会	東京・すみだ産業会館
11/4~6	第34回日本スリーデーマーチ	後援	日本ウオーキング協会、埼玉県、東松山市、朝日新聞社ほか	埼玉県東松山市などの比企丘陵一帯
11/5・6	全日本手をつなぐ育成会第60回全国大会、東京大会、本人大会、第45回関東甲信越大会	後援	全日本手をつなぐ育成会、関東甲信越ブロック手をつなぐ育成会連絡協議会ほか	東京国際フォーラム、国立オリンピック記念青少年総合センター
11/12	第8回本間一夫文化賞	後援	日本点字図書館	ビッグボックス（東京・高田馬場）
11/16	第23回国民の健康会議	協賛	全国公私病院連盟	ヤクルトホール（東京・港区）
11/18	平成23年度全国社会福祉大会	協賛	厚生労働省、全国社会福祉協議会、中央共同募金会	東京・日比谷公会堂
11/19	第32回全国歯科保健大会	後援	厚生労働省、岐阜県、岐阜市、日本歯科医師会、岐阜県歯科医師会	長良川国際会議場（岐阜市）
11/19・20	第15回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会	後援	京都聴覚言語障害者福祉協会、埼玉聴覚言語障害者福祉協会ほか	大谷大学（京都市）
11/20	シンポジウム「子どもたちの日常をとりまく性被害」	後援	ポルノ被害と性暴力を考える会	東医健保会館大ホール（東京・新宿区）
11/27	第4回シンポジウム「柔道事故撲滅に向けてのアプローチ」	後援	全国柔道事故被害者の会	ニコラ・バシ講堂（東京・千代田区）
12月	交通遺児等を支援する会越年助成金	後援	交通遺児等を支援する会	
12/1	上野学園第52回慈善演奏会	後援	上野学園	東京・上野学園石橋メモリアルホーム
12/1~7	夢編み俱樂部新作展示会	後援	夢編み俱樂部	東急百貨店東横店
12/5~9	第49回弘済学園・わたしたちが創る展	後援	鉄道弘済会、東京都社会福祉協議会	JR東京駅丸の内北口地下動輪の広場

日程	催事		主催者	会場
12/20	第60回東京都社会福祉大会	協賛	東京都、東京都社会福祉協議会、東京都共同募金会	東京都庁第一本庁舎大会議場
12/20~25	自立援助ホーム「憩いの家」資金バザー	後援	青少年と共に歩む会	日本橋高島屋
1/9	浦和学院高校吹奏楽部第7回チャリティーコンサート	後援	浦和学院高校吹奏楽部	さいたま市民会館おおみや・大ホール
1/28・29	全国児童相談所一時保護所研究セミナー	後援	児童相談所一時保護所研究会	埼玉県立大学
3/3	メンタルヘルスの集い(第26回日本精神保健会議)	後援	日本精神衛生会	有楽町朝日ホール
3/4ほか	第57回「耳の日」記念行事	後援	日本耳鼻咽喉科学会	有楽町朝日スクエアほか
3/8・9	第4回国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブ in 横浜」	特別後援	ゴールデンウェーブ実行委員会、横浜みなとみらいホール	横浜みなとみらいホール
大 阪 事 務 所				
4月~ 13年3月	第47期電話相談ボランティア養成講座	後援	関西ののちの電話	大阪府立羽衣青少年センターほか
4月~10月	大同生命厚生事業団助成(地域保健福祉研究、ボランティア活動)	後援	大同生命厚生事業団	大同生命大阪本社ほか
4月~ 12年3月	家庭看護実習教室、短期集中看護実習教室	後援	大同生命厚生事業団	大同生命大阪本社ほか
4/14~16	第17回総合福祉展「バリアフリー2011」	後援	大阪府社会福祉協議会ほか	インテックス大阪
4/23	第29回日本ライトハウスチャリティーコンサート	後援	日本ライトハウス	ザ・シンフォニーホール
5月~ 12年3月	ソーシャルワーカー養成講座	後援	京都国際社会福祉協会の会	京都国際社会福祉センター
5/27	「若さの栄養学」春の講演会	後援	若さの栄養学協会	大阪産業創造館
5/29	第18回共生・共走リレーマラソン	後援	共生・共走リレーマラソン実行委員会	花博記念公園鶴見緑地
6/4	「共に生きる15」コンサート	後援	「共に生きるコンサート」実行委員会	箕面市立メイプルホール大ホール
6/4・5	第6回堺国際ツデーマーチ	後援	同実行委員会(堺市、日本ウォーキング協会、朝日新聞社ほか)	堺市大仙公園一帯
6/19	第10回全国LD親の会公開フォーラム	後援	全国LD親の会	ドーンセンター(大阪市中央区)

日程	催事		主催者	会場
6/19	第18回マインドエアロピクス	後援	マインドエアロピクス実行委員会	大阪市長居障害者スポーツセンター体育室
6/21	第61回施設従事者激励会	後援	大阪民間社会福祉事業従事者共済会	大阪松竹座
6/30~7/2	東日本大震災チャリティー連続講座 「東日本大震災を考える～希望・ニッポン 被災地復興へ」	後援	朝日新聞社、朝日カルチャーセンター、関西学院大学災害復興制度研究所	朝日カルチャーセンター中之島教室
7/1、8/6	第17回すいた共生・平和のつどい	後援	すいた共生・平和のつどい実行委員会	吹田市民会館、内本町コミュニティセンター
7/1~9/30	2011体験☆COMVOー夏のボランティア活動	後援	大阪市社会福祉協議会、大阪市	大阪市内ほか
7/16~24	2011度障害児教育夏期連続講座	後援	財団法人子供の城協会	大阪市・公文教育会館
7/9	福祉の就職総合フェア 2011 in OSAKA	後援	大阪府、大阪府社会福祉協議会・大阪府福祉人材センターほか	インテックス大阪2号館
7/18~23	第32回子どもたちの讃歌展	後援	大阪特別支援教育諸学校造形教育研究会ほか	大阪府立現代美術センター
7/24	第19回障害者の明日を語り合うつどい	後援	障害者の生活と権利を守る県民集会実行委員会	神戸市医師会館
7/30・31	全国障害者問題研究会第45回全国大会（大阪）	後援	全国障害者問題研究会、同大会準備委員会	大阪国際会議場、四天王寺大学
8/8~13	第28回土と水と緑の学校	後援	社団法人アジア協会アジア友の会	和歌山県新宮市高田地区一帯
8/20	REALVoice～「子どもへの暴力」生の声を聞く	後援	NPO法人暴力防止情報スペース・APIS	ドーンセンター
8/26~28	吃音親子サマーキャンプ	後援	日本吃音臨床研究会	滋賀県立荒神山少年自然の家
9/4	第50回近畿知的障害者福祉大会、第6回神戸市手をつなぐ育成会大会	後援	近畿手をつなぐ育成会連絡協議会ほか	神戸文化ホール
9/25	第52回大阪知的障がい者福祉大会	後援	大阪手をつなぐ育成会ほか	和泉シティプラザ
10/10	大阪YMCA第17回チャリティーラン	後援	大阪YMCA、ワイズメンクラブ国際協会西日本区ほか	大阪城公園

日程	催事		主催者	会場
10/23	ファインエリアフェスティバル2011	後援	実行委員会、大阪府立障がい者交流促進センター、堺市城山台校区連合自治会ほか	大阪府立障がい者交流促進センター
10/23	第39回全大阪ろうあ者文化祭	後援	大阪聴力障害者協会、大阪市聴言障害者協会	大阪市長居障害者スポーツセンター
10/29・30	第30回スポーツフェスタ 2011 大阪	後援	大阪知的障がい者スポーツ協会	大阪市長居陸上競技場ほか
10/29	大阪市福祉就職・進学フェア	後援	大阪市福祉就職・進学フェア実行委員会	大阪市社会福祉研修・情報センター
11/12・13	第47回肢体不自由児者を支援するチャリティーバザー	後援	大阪府肢体不自由児者父母の会連合会	買物公園（八尾市山城町）
11/13	第35回福祉まつり	後援	第35回福祉まつり実行委員会	関目学園（大阪市城東区）と周辺
11/20	やわた作業所・ほっと・きろろん後援会20周年記念事業	後援	やわた作業所・ほっと・きろろん	京都府八幡市文化センター
11/22	第12回大阪救護施設合同文化事業	後援	大阪救護施設合同文化事業運営委員会	太閤園（大阪市都島区）
11/25	平成23年度大阪府社会福祉大会	後援	大阪府社会福祉協議会ほか	大阪国際交流センター
11/25	福祉の就職フェア AUTUMN in OSAKA	後援	大阪府、大阪府社会福祉協議会ほか	大阪国際交流センター
11/25	「若さの栄養学」秋の講演会	後援	財団法人若さの栄養学協会	大阪産業創造館
11/25・26	平成23年度医療社会事業従事者講習会	後援	NPO法人大阪医療ソーシャルワーカー協会	大阪府社会福祉会館
11/26、12/3	こころがシンドイときシリーズ	後援	NPO法人精神障害と社会を考える啓発の会	エル・おおさか
11/30~12/3	第18回ノーマライゼーション絵画・創作展	後援	ノーマライゼーション絵画・創作展実行委員会	大阪市立総合生涯学習センター
12/10~15	第35回チャリティー画展	後援	日曜画家協会	大阪市中央公会堂
1/11~17	第29回ふれあいの街・チャリティーバザール	後援	大阪府社会福祉協議会成人施設部会・セルフ部会ほか	高島屋堺店
1/15	第32回みんなでつくるコンサート	後援	同コンサート実行委員会	西宮市プレラホール

日程	催 事		主 催 者	会 場
1/26~31	第31回障害のある子どもに学ぶ図工展	後援	大阪市小学校教育研究会特別支援教育部、大阪市小学校特別支援教育担任者会	大阪市長居障害者スポーツセンター
1/29	平成23年度認知症講演会	後援	財団法人大阪認知症研究会	千里ライフサイエンスセンター
2/5・11・18	福祉の就職フェア WINTER in OSAKA	後援	大阪府、大阪府社会福祉協議会ほか	大阪市立北区民センターほか2カ所
2/18・19	TEACCHコラボレーションセミナー	後援	TEACCHプログラム研究会	京都市・シルクホール
2/25	素のままフェスタ2012	後援	同フェスタ実行委員会	豊中市立アクア文化ホール
2/26	難病患者の医療・福祉・介護を考える府民のつどい	後援	大阪府、NPO 大阪難病連、大阪難病支援センター	エル・おおさか
3/7~10	第27回肢体不自由児者の作品展	後援	大阪府肢体不自由者協会ほか	ドーンセンター
3/10・17	オーストラリア・クインズランド脳損傷協会シナプス講演会	後援	シナプス講演会実行委員会	横浜市社会福祉センター、堺市民会館
3/13~18	第14回土と色一響き逢う世界一京都展	後援	同展実行委員会	京都市美術館（本館）
3/26	第50回衛生教育大阪大会、第54回公衆衛生大阪大会	後援	大阪府、大阪公衆衛生協会ほか	大阪府病院年金会館
西 部 事 務 所				
3/13~8/28	第1回全九州ろう社会人軟式野球大会	後援	九州ろう社会人軟式野球連盟	大牟田市延命球場ほか
通年	西日本カラオケ連合協議会のチャリティー発表会（4回）	後援	西日本カラオケ連合	北九州市内の生涯学習センターほか
5/21	第29回北九州精神障害者家族会連合会総会	後援	北九州精神障害者家族会連合会	ウエルとばた
5/28	第49回北九州市障害者スポーツ大会	後援	北九州市障害者スポーツ協会ほか	本城陸上競技場など
6/1~6 6/15~21	第46回西部伝統工芸展	協力	日本工芸会ほか	福岡三越 熊本鶴屋百貨店
7/16~19	第32回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ	後援	福岡あゆみの会	やすらぎ荘

日程	催 事		主 催 者	会 場
8/11~13	第56回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ	共催	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡県立少年自然の家「玄海の家」
10/2 10/23	第48回福岡県ろうあ者体育大会	後援	福岡県聴覚障害者協会	福岡市・久留米市のグラウンドほか
10/30	平成23年度母子・父子家庭、寡婦ふれあい体育祭	協力	北九州市母子寡婦福祉会ほか	北九州市総合体育館
11/10~ 12/10	第59回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡市など福岡県内主要都市
11/20	第22回全国ふうせんバレーボール大会	後援	ふうせんバレーボール振興委員会	北九州市立総合体育館
12/4	第14回北九州市手話フェスティバル	後援	北九州市聴覚障害者協会ほか	北九州芸術劇場大ホール
名古屋事務所				
4月~10月	第63回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	後援	愛知県共同募金会ほか	愛知県庁本庁舎ほか
4/16~ 5/28	平成23年度愛知県障害者スポーツ大会	後援	愛知県、愛知県社会福祉協議会	星ヶ丘ボウル（名古屋市）ほか
4/24	第31回愛知県聴覚障害者体育大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	岡崎市中央公園ほか
5/8、8/28 11/20・27	第8回名古屋市障害者スポーツ大会	後援	名古屋市ほか	瑞穂公園陸上競技場ほか
5/20~22	第14回国際福祉健康産業展~ウェルフェア2011~	後援	名古屋国際見本市委員会	ポートメッセなごや
6/19	東日本大震災復興支援チャリティーコンサート	後援	NPO 法人ヘルピングハンズアンドハーツジャパン	名古屋市熱田文化小劇場
7/3	第28回愛知県聴覚障害者大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	大府市勤労文化会館
7/10	東日本大震災被災者支援企画「希望ニッポン」ロバート・キャンベル氏チャイティー講演会	後援	朝日カルチャーセンター、朝日新聞社	朝日ホール（名古屋市）
8/6~11	第28回岐阜心理リハビリテーション療育キャンプ	後援	岐阜心理リハビリテーション部会ほか	せせらぎ街道の宿たかお（郡上市）
8/8~26	2011年度アサヒキャンプ名古屋	後援	NPO法人アサヒキャンプ名古屋	岐阜県中津川市・乙女溪谷キャンプ場
8/17~23	第26回中部ブロック動作法セミナー	後援	三重県心理リハビリテーション連合会	鈴鹿青少年センター
8/18~23	第39回愛知心理療育キャンプ	後援	愛知心理療育親の会	NPO 癒やしの宿福の神 吉良の庄（西尾市）
9/10~ 12/10	第59回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県青い鳥医療福祉センター
9/15~18	第45回全国ろうあ者体育大会 in あいち	後援	全日本ろうあ連盟	愛知県刈谷市総合運動公園ウィングアリーナほか

日程	催 事		主 催 者	会 場
9/25	第35回 '11 愛のフェスティバル	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成会福祉会館ひろば
10/8	生き生き長寿フェア2011「はつらつ健康プラザ」	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	あいち健康の森公園 (大府市・東浦町)
10/8	脳外傷リハビリテーション講習会	後援	脳外傷リハビリテーション講習会実行委員会	名古屋市中区役所ホール
10/26	第59回愛知県社会福祉大会	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	愛知県体育館
11/20	第39回医療講演会	共催	三重県重症心身障害児(者)を守る会	伊勢市観光文化会館
12/11	第51回愛知県身体障害者福祉大会	後援	愛知県身体障害者福祉団体連合会ほか	岡崎中央公園総合体育館・武道館
12/18	第56回名古屋市身体障害者福祉大会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市公会堂大ホール
1/28	NPO 法人あいち福祉オンブズマン主催セミナー・介護事故模擬裁判劇	後援	NPO 法人あいち福祉オンブズマン	朝日ホール
2/19・25	平成23年度知的障害者支援者養成講座	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成会福祉会館ほか
3/4	第30回耳の日記念聴覚障害者と県民のつどい	後援	愛知県聴覚障害者協会ほか	名古屋市公会堂
3/27・28	アサヒ春休み川のほとりキャンプ	後援	NPO法人アサヒキャンプ名古屋	春日井市少年自然の家

チャリティー美術展に出展いただいた皆様

(50音順、敬称は略させていただきました)

【日本画】

(あ行)

相嶋崇人	相羽ユキ	赤井春水	赤沢嘉則	赤羽根一司	秋本幸一	足利満雄	小豆島良耳
荒井孝	新井陽子	荒木孤人	有賀明文	安藤徹	池田雅仔	池田夏乎	石踊紘一
石崎昭三	石田幸誠	石塚青篁	石永皓一郎 (故人)	伊勢巧	伊勢巧	市川保道	市野鷹生
市野晴美	市橋豊美	伊藤紫虹	伊藤獨	伊藤正男	伊東美巳	井上耐子	井上北斗
猪熊佳子	今井武久	磐城佳子	岩崎美代子	岩田三枝	岩波昭彦	岩本峯斉	植田清子
上村淳之	鵜飼千佐子	臼井治	内田広己	内田政美	烏頭尾精	梅岡徳子	梅原幸雄
浦上義昭	江口佳寿子	蝦名芳枝	遠藤隆稔	王荻地	大嶋英子	太田圭	大竹紫水
太田小晴	大塚千聡	大月紅石	大野逸男	大野廣子	大野幹彦	大森運夫	大矢時保
大矢十四彦	大矢紀	大山鎮	岡田郁子	岡田繁憲	岡信孝	岡本彩湖	小川国亜起
小倉理山	押元一敏	落合初美	小山硬	折式田生子			

(か行)

樫下稔	春日あけみ	片山宏	加知満	勝田幸男	加藤哲男	加藤美恵子	兼島聖司
鎌田紀子	上岡奈苗	川合和子	河合重政	川崎マリ子	川島睦郎	川嶋渉	河津胖子
河村沙希	神林久子	菊川三織子	菊池治子	岸野圭作	北原雅眉瑠	金原保則	久芳道信
久保吉郎	久保孝久	久保嶺爾	倉田富美	倉地千枝子	黒澤正治	黒光茂明	小泉智英
郷倉和子	香西坦子	香野ルミ子	国府克	小島光径	後藤順一	後藤紳也	後藤純男
後藤芳世	小林済	小林裕子	小林正直	小林六博	近藤ミヤ		

(さ行)

齋藤陽	斉藤和	斎藤宗	坂元洋介	佐久間顕一	佐々木経二	佐々木裕而	笹本正明
佐治満澄	佐竹雲遊	佐藤晨	佐藤継雄	佐藤啓美	佐藤叔	里見颯伸	猿橋幸治
澤山輝彦	重岡良子	品川成明	篠崎美保子	澁澤卿	清水史郎	清水達三	清水信行
下川辰彦	下島洋貫	霜鳥忍	白井久義	杉谷彩光	杉山博子	鈴木竹柏	鈴木至夫
鈴木美津子	千住博	楚里清					

(た行)

田井久江	高岡秀造	高木白雲	高木元子	高越甚	高橋新三郎	高橋裕子	高畑郁子
瀧沢巨森	田口愛子	武市斉孝	武田州左	田島奈須美	多治見早苗	田代邦子	田中重造
田中瑞芳	田中基美	谷井恵紅	谷口蕙香	田宮栄子	田村仁美	千村俊二	月居和子
辻村和美	津田勉	土長けい	土屋雅裕	筒井耀也美	角田範子	道家珍彦	戸田みどり
殿南直也	富元秀俊	鳥垣英子	鳥山武弘				

(な行)

長崎莫人	中澤静	中島潔	中島千波	永田耕治	永田実子	中谷温男	中庭隆晴
中野嘉之	仲林敏次	中村宗弘	永森一郎	那波多目功一		成田環	仁木寿美子
西村勝廣	西村光人	西山英子	西脇繁華	沼本三郎			

(は行)

長谷川郁子	服部倫子	服部誠子	浜上俊和	浜田泰介	林孝彦	林田啓江	林美枝子
原武子	原田巧	稗田一穂	日置宏輔	日景博	日比野光雄	平岩洋彦	平尾秀明
平田春潮	平松礼二	廣岡通正	福王寺一彦	福本達雄	藤井康夫	藤原志保	藤原祐寛
二川和之	紅山幸水	堀川えい子	本間正英				

(ま行)

前田暉	牧進	馬驍	馬瀬里子	間瀬静江	町田泰宣	松生歩	松尾敏男
松崎良太	松下勝正	松下宣廉	松下園江	松原秀伸	松本進	松本哲男	松本実
真野尚文	丸尾久子	三浦絵衣子	三上俊樹	三沢英伍	水江東穹	水谷勝子	水野收
三谷青子	三村伸絵	三宅和光	宮崎観峰	宮本和胡	三輪晃久	村井玉峰	村井葉子
村田晴彦	村田林藏	森英明					

(や行)

矢澤貞子	安川眞慈	谷中武彦	柳績	柳沢正人	山口義明	山崎弘芳	山下まゆみ
山平貞信	山本恭子	山本静香	山本しず子	山本真一	山本真也	山本兆揚	吉岡三樹子
吉田祥子	吉田多最	依田有立					

(わ行)

和田洸珀	和田利造	渡辺章雄	渡邊幸子	渡辺富栄	渡邊美喜
------	------	------	------	------	------



【洋画】

(あ行)

饗庭昌貞	青江健二	青木今陽	阿久津正志	明吉美智子	浅井清貴	浅井欣哉	浅井義弘
麻田博子	遊馬賢一	東弘孝	安達康夫	渥美静子	阿部信行	阿部晴美	安部英夫
天津恵	天野吉則	雨森陽子	荒井孝	有田巧	有田守成	安藤公一	飯田道嗣
家田聖子	家田非左子	五百住乙人	猪飼淳	池田くみ子	池田清明	池田洋子	恵俊彦
井阪仁	石川幸子	石川世始子	石川ヨシ子	石倉豊	石阪春生	石澤久夫	石田聖子
石根三千代	石野紀美子	石野容三	石橋武夫	石原ミチオ	泉地靖雄	泉富美	磯部徹男
板垣千鶴子	板倉美智子	伊丹重男	市古肅亮	市村一	井手典子	出村幸代	伊藤郁
伊藤和義	伊藤清和	伊藤順子	伊藤純子	伊藤昭蔵	伊藤隆	伊藤秀男	伊東博子
伊藤弘之	伊藤文男	伊藤万几子	井藤雅博	伊藤康夫	稲垣龍雄	稲田ハル (故人)	
井上圭史	井上憲一	井上慎介	井上利哉	井上由美子	井口由多可	伊庭新太郎	今村昭寛
今村价男	入江観	岩井康頼	岩崎雄造	岩瀬郁夫	岩田視司	岩田知幸	岩谷康世
岩渕晃三	岩本かづえ	イ・ワヤン・シーラ		上木伸之	植木美代子	上嶋スミコ	上尚司
上田ますみ	植月正紀	上野憲一	上野千代子	臼井恵之輔	碓井たか子	薄久保友司	宇田喜久子
内山懋	宇野孝之	宇野義行	生方純一	梅村徹	浦川彰子	栄永大治良	榎俊幸
榎本多恵子	江本繪門	遠藤晴夫	王前一馬	大石つね子	大岡立	大川浩市	大口邦子
大熊峻	大島幸夫	大谷哲生	大津英敏	大附晋	大西生余子	大西弘之	大野孝泰
大淵繁樹	大森良三	大山富夫	岡貞徳	岡田圭介	岡田俊一	岡田全良	岡千秋
岡宏	岡村敦子	岡本正尹	岡本尚子	小川清子	小川幸紅	小川周二	雄川ちづ子
沖田幸和	沖田廉平	奥田喜一	奥村聰臣	尾崎功	尾崎重春	尾崎ゆき子	納健
小澤一正	尾澤達也	小澤摩純	小沢眞弓	小田島えい子		織田廣喜	織田義郎
越智節昇	乙丸哲延	小野仁良	尾松直	面矢元子	折本美祢子		

(か行)

加古千恵子	笠井誠一	梶浦寿布	春日井正	粕谷良雄	片山昭弘	片山弘明	勝呂隆光
加藤助八	加藤千太郎	加藤大博	加藤トオル	加藤信子	加藤日出男	金井順子	壁下孝
上所幹彦	神谷正海	辛島一誓 (故人)		加覧裕子	川井一義	川口輝夫	河西昭治
河野宗之蒸	川原比瑳子	川辺忠孝	河村科世子	河村雅文	木浦寛治	菊池郁子	菊地洋二
喜澤のり子	岸田淳平	岸田夏子	岸野昭	木谷利江	北野隆祥	北原悌二郎	北見隆
北村美枝	北山茂	橘田政明	木寺淳二	鬼頭恭子	城戸幸子	城戸義郎	絹谷幸二
木下實之	樹林雅生	木俣滋彦	木村信之	木村正志	木村優博	木脇康一	日下直樹
草壁隆	草野直己	楠崇子	久世瑠璃	工藤和男	久保輝秋	倉田和夫	倉田政子
倉持正	栗田政勝	黒川彰夫	黒木郁朝	黒木邦彦	黒木トシ子	黒木雅彦	黒沢信男
黒田秀方	黒田富紀子	黒田勝	黒田保臣	黒柳弘行	桑島春彦	小池かよ	小泉元生
小泉守邦	甲谷武	河本和子	郡桂子	古賀猛	小阪謙造	小阪弘子	五島まさを
小杉小二郎	小瀬垣宏郎	後藤昭夫	小早川協右	小林千枝	小林裕児	小柳晟	小柳幸代
小柳吉次	小山オサム	小山成	近藤昭彦	近藤壽一郎	権藤信隆	近藤幸	

(さ行)

斎藤吾朗	斎藤孝弘	斎藤千川子	斎藤秀夫	斎藤由比	佐伯浩	酒井英利	坂谷和夫
坂中功一郎	坂本直	坂本よしこ	櫻井孝美	桜井陽彦	佐光重紀子	佐々木馨	佐々木貞夫
佐々木澄江	佐々木友幸	佐々謙二	佐竹稔	佐藤一成	佐藤勝信	佐藤カツヤ	佐藤潤
佐藤忠彦	佐藤富美子	佐藤義光	佐野千津子	佐野比呂志	佐伯喜三郎	猿渡士郎	澤辺茂男
塩川佑子	志賀源吾	四方道夫	七里和子	篠崎和子	芝田キク	柴田美智子	柴山静穂
芝芳雄	嶋谷卓之	嶋谷美鈴	島田安雄	嶋津俊則	嶋貫佑一	清水亟愼	清水鉄彌
清水佳子	下園由莉	白川順子	白坂介明	白鳥三郎	白山扶士子	新宅光男	水藤澄子
菅沼正則	菅原洸人	杉浦充	杉田明維子	杉村美文	杉本澄男	杉山重雄	杉山英子
鈴木貞子	鈴木田俊二	鈴木奈緒	鈴木延雄	鈴木福男	鈴木睦美	鷺見康夫	瀬尾一嘉
関口貴美	関拓司	瀬下ゆり子	銭谷誠	世利徹郎	園山幹生	祖父江弘幸	

(た行)

大門正忠	高木政彦	高野元孝	高橋一善	高羽清司	高松政子	高森明	多賀谷無人
高山晃	田川知子	滝沢直次	滝滋	瀧田依子	宅田忠正	田口正子	田口貴久
武井政之	竹内重行	竹内靖夫	竹生節男	竹下功	竹中稔量	竹原邦樹	田澤茂
多田すみえ	多田晴義	辰将成	館内美智子	楯岡和子	田中敏夫	田中ひとえ	田中宗雄
田中良	田辺新吾	谷川泰宏	谷口和正	谷田穎郎	谷本暁雄	田伏勉	タマカワ千恵
玉木英治	玉谷明美	玉谷優	田村正幸	知念正文	千原稔	塚田清	塚原ヨリ子
塚本英一	塚本吉廣	津川純子	辻司	津田勝利	堤慶	椿野浩二	弦田英太郎
鶴房健蔵	鶴見雅夫	鶴山好一	出口修	寺沢順子	寺西進三郎	土井邦晃	東方達志
遠山源吾	戸狩公久	歳嶋洋一朗	戸高明義	外処旭	富澤尚美	富田利雄	友成晴雄

(な行)

長井功	中井一誠	中井史郎	長井宏之	長川清悦	中桐康夫	長澤すみ江	長澤卓重
中嶋国博	中島大三	中島千恵	中島裕司	中嶋美瑛子	中田順	中谷健三	長富博子
中西文彦	中西良招	中根寛	中野治朗	長濱伶子	中村郁夫	中村英	中村一人
中村啓子	中村晃子	中村輝行	中村光幸	中村百合	中山忠彦	生井京子	檜崎重視
成瀬光男	難波忍	西井義晃	西澤知江子	西田藤三郎	西塚芳子	西野一郎	西村壽郎
西山徹	新田ゆき子	抜井亀良	塗師祥一郎	沼尾雅代	沼田月光	根萩斎門	野久保由美子
野田富三郎	ノブサチ	野辺田紀子	野村重紀子	乃村豊和			

(は行)

萩原栄文	橋本忠夫	長谷岩友	長谷川和子	長谷川仵	馬場一郎	浜口美和	濱田進
濱田弘康	濱哲郎	濱本恵一	早川義孝	早川勝	林敬二	林孝三	林茂樹
原田たかし	原田嘉徳	原尚子	半澤満	日賀野兼一	樋口貞男	平井智子	平岩郁郎
平尾倫子	平川富貴子	平沢文一	平野昭子	廣岡清武	広瀬範	広田和典	深川和久
深津静男	福岡幸子	福岡通男	福田陽子	福永紀子	福原満江	福満よさ美	藤井多鶴子
藤井勉	藤崎恒頼	藤浪成喜	藤村サツ子	藤本正男	藤森悠二	藤原慶子	布施久美子
舟越利和	船本清司	ブライアン・ウィリアムズ			古野紀征	別府忠雄	帆足ゆり

保ヶ渚静彦 細川進 細谷久美子 堀井克代 堀江優 堀尾一郎 堀太郎 堀博喜
 本多しず子 本間千恵子

(ま行)

前川雅幸 前島隆宇 楨利光 牧野美代子 卷山昌宏 正木茂 柁木高 真砂貞二
 マサルW 松井茂樹 松浦正博 松浦安弘 松樹路人 松沢茂雄 松田貴美子 松田澄夫
 松永罇子 松永知久 松原政祐 松村和紀 松室重親 松本年晃 間中敏子 馬渚鈴美
 丸山勝三 三浦勝治 三浦敏和 三木義尚 三塩清巳 水野伊津子 水野輝子 水野一
 水野尚 溝渚泰史 南田昌康 源尊磨 三柘明子 三宅四郎 宮崎進 宮下由夫
 宮田翁輔 宮平勉 宮本裕之 宮山博司 三好準治 三輪吉三郎 村井成好 村井洋子
 村岡顕美 村瀬京平 村田伊佐夫 村山容子 村山陽 毛利弘子 望月美江 百瀬貞子
 森勇 森茂子 森下ヒロ子 森田幸宏 森長武雄 森文男 森本計一 森本有一

(や行)

八木時子 安井正子 安居素子 安富信也 安福葉子 柳瀬俊泰 矢野喜久男 矢萩武三志
 八尋隆徳 矢部聡 山尾才 山岸用之介 山口剛生 山口静治 山口隆夫 山口ひろみ
 山口美佐子 山崎昭男 山下恒子 山下毅 山下弘喜 山下幸夫 山田正二 山田精一
 山田典男 山田嘉彦 山手正彦 山寺重子 山之内弘 山羽斌士 山本亞稀 やまもと悦子
 山本悦子 山本虎雄 山本文彦 横井三郎 横内襄 横山申生 横山了平 吉井爽子
 吉岡耕二 吉城弘 吉田清光 吉田淳一 吉田敏男 吉田緑 吉野清 吉松八重樹
 吉村美令由 四本祐司 米田整弘 米満大九郎

(わ行)

脇幹夫 わたせせいぞう 渡辺明 渡辺一夫 渡辺卓美 渡辺てるお 渡辺とめ
 渡辺正夫 渡邊妙法 渡辺良一 渡部ひでき 和田行雄 渡紀美子

【工芸】

(あ行)

相羽鴻一郎 青木九仁博 青木挙 粟生屋東洸 青山鉄郎 赤毛敏男 秋野宏和 浅蔵五十吉
 浅原千代治 東正之 東好昭 与勇輝 安達章 安達雅一 新歓嗣 天野達夫
 雨宮弥太郎 荒井さつき 荒木広 嵐一夫 有松進 有本空玄 安藤和久 安藤光一
 安藤敏彦 安藤則義 安藤日出武 安藤博允 池島玲子 池田珪子 石井視子 石川満
 石野泰造 石山静男 伊豆蔵幸治 伊勢崎淳 伊勢崎創 磯谷晴弘 磯部晃 市川博一
 市川正美 市野悦夫 市野元祥 市野茂良 (故人) 市野信水 市野哲次 市野年成
 市野英一 市野雅彦 市野正大 市野勝 市野元和 一瓢斎 糸井康博 伊藤敦子
 伊藤憲一 伊藤赤水 伊藤美秀 伊藤優 伊東祐一 伊藤良典 伊藤渡 稲垣太津男
 稲垣幹夫 稲嶺盛吉 稲荷作 井上浩一 井上萬二 井上康德 井上楊彩 今泉今右衛門
 今井紀昭 今井政之 今西方哉 今村博 伊村徳子 井村まゆみ 岩井香楠子 岩瀬健一
 岩本孝志 上田菊明 上田寿方 上田哲也 鶴飼真知子 後田和孝 宇田川溪山
 宇田川玄翁 (故人) 内堀敏房 内村幹雄 内村由紀 内山政義 浦上光弘 うら林あきお

漆畑登	永楽善五郎	大石督幸	大泉讚	大上巧	大河内泰弘	大川正洋	大倉貞義
大倉真汝	大塩玉泉	大塩昭山	大塩正義	大嶋久興	大須賀選	大角幸枝	太田和明
太田公典	大谷昌拈	太田貢	大槻昌子	大野晃幹	大野耕太郎	大野昭和斎	大野誠二
大橋聡子	大橋裕	大場匠	大樋勘兵衛	大樋朔芳	大樋長左衛門		大樋年雄
大平和正	大平孝昭	岡澤伸之	緒方修一	岡田親彦	岡田裕	岡本篤	岡本信也
岡本白水	岡本碧山 (故人)		小川健次郎	小川長楽	小川二楽	荻内善晴	荻原毅久
荻原守彦	奥田浩堂	小口千鶴子	奥村公規	奥村繁豊	奥山峰石	小倉健	小椋範彦
桶谷洋	尾西楽斎	小野隆治	小畑裕司	尾張裕峯			

(か行)

加賀瑞山	角谷英明	各見壽峯	各見飛出記	隠崎隆一	加古勝己	鹿児島成恵	鹿島和生
梶原茂正	片岡宏幹	勝尾青龍洞	勝尾龍彦	勝田文博	勝田保子	桂寛	加藤永司
加藤錦雄	加藤清之	加藤錦三	加藤溪山	加藤孝造	加藤幸兵衛	加藤作助	加藤惇
加藤春鼎	加藤嵩	加藤忠雄	加藤唐三郎	加藤土史路	加藤土代久	加藤允	加藤美土里
加藤康景	加藤佑	加藤陽児	加藤嘉明	加藤廉平	金森伸郎	可児一広	金子信彦
金子認	金重晃介	金重利右衛門		加納義光	樺澤健治	鎌田幸二	神谷英介
亀井幸一	亀井勝	加守田太郎	川井明子	川井明美	河井喜代子	河合竹彦	河井透
河井敏孝	川合正樹	河上恭一郎	川上清美	川上力三	川北浩彦	川北良造	河口純一
川口保規	川崎鳳嶽	川崎靖英	河内國平	川手敏雄	河端一海	川端近左	川端文男
川原和夫	川淵直樹	神崎継春	神崎正英	神戸保明	神戸義憲	菊池昭	菊池挙子



菊地弘	岸本久泉	北大路泰嗣	北岡秀雄	北口夢石	北野勝彦	北村堅治	北村昭斎
北村英昭	吉向孝造 (九世松月)		吉向琮斎 (八世松月)		吉向蕃斎 (七世松月)		衣川俊仁
木村玉舟	木村素静	木村展之	木村盛和	木村盛伸	木村盛康	清水六兵衛	吉良博
久野勝生	熊谷保興	栗林一夫	黒井千左	黒岩卓實	黒木国昭	黒田正玄	黒田暢
黒田儀男	黒野丈治	桑原みさ雄	桑山圭洋	元田五山	鯉江廣	小出甚吉	厚東孝明
河野玄容	神山直彦	神山易久	小島憲二	小嶋太郎	小谷多美子	小峠葛芳	小西陶蔵
小西朋子	小西博雄	小橋川清次	小林一雄	小林一富美	小林東洋	小林浩	小林貢
小林勇超	小南吉彦	小室幸雄	小谷内和央	小柳種圃	小山貴由	近藤しゅうじ	
近藤潤	今野春雄						

(さ行)

斎木勲	齋藤明	齋藤修	斎藤鷹郎	斎藤則行	斎藤裕子	西念秋生	坂井修
阪井舜	酒井田柿右衛門		坂井貂聖	坂井教人	酒井芳樹	榊原勇一	坂田甚内
坂手春美	坂本俊人	佐久間藤也	笹岡基三	佐々木厚	佐々木省庵	佐々木二郎	佐々木苑子
佐々木強	佐々木雅浩	佐々木悠紀子		佐藤和彦	佐藤走波	佐藤苔助	佐藤喬
佐藤巧	佐藤二三子	佐藤泰子	佐藤亮	佐土浩一	佐野寛	皿谷緋佐子	皿谷実
澤清嗣	沢田重雄	沢田豊山	柴岡信義	芝山吉邦	島岡桂	島田緋陶志	島田文雄
清水潮	清水潤	清水醉月	清水千代市	清水俊彦	志村ふくみ	志村洋子	庄村健
白武初芳	白幡明	城間栄順	新庄貞嗣	新谷一郎	神農巖	杉江明美	杉江善次
杉本貞光	鈴木藏	鈴木勝詞	鈴木環	鈴木五郎	鈴木三成	鈴木茂至	鈴木爽司
鈴木貴詞	薄田浩司	鈴木富雄	鈴木直喜	鈴木美貴子	鈴木量	砂田正博	諏訪蘇山
十河慶子	曾根芳之						

(た行)

平良敏子	高岡久美子	高権成	高取八山	高橋彰	高橋佐門	高橋春斎 (故人)	
高橋新六	高橋政男	高橋楽斎	高橋和三郎	高原邦彦	高原卓史	高見勝代	滝川幸志
滝口和男	瀧口喜兵衛	武石和春	竹内眞三郎	武腰潤	竹田忠生 (尋牛)		武田敏男
炬口佳枝	武村豊徳	竹村繁男	田島明	伊達陽一	田中忍	田中美奈子	田中悠子
谷川仁	谷口玄	谷口幸二	谷清右ヱ門	谷野明夫	谷本洋	田沼春二	田原陶兵衛
玉置保夫	玉村松月	玉村登陽	力石俊二	中条照子	沈壽官	塚原三千勝	塚本治彦
塚本満	辻英芳	辻勘之	辻聡彦	辻常陸	土田育弘	土谷道仙	土田友湖
土屋典康	筒井修	筒井辰也	都築青峰	堤圭一	恒岡光興	坪島土平	出口清廣
手塚隆	手塚央	寺井恭	寺池静人	寺田みのる	寺本守	照井一玄	天坊昌彦
徳田明美	徳田八十吉	豊住和廣	豊場惺也	豊本善隆			

(な行)

永井素懂	長江哲男	中尾彰秀	中尾英純	中尾恭純	中川進	中川つや子	中里重利
中里太郎右衛門		中里壽	中島翁助	中島卓	中嶋虎男	中島保美	中島悠紀夫
中田呂尚	中塚佐一	中根秀介	中野一政	長野恵之輔	中村眞一	中村雅明	中村實
中村豊	並木恒延	成良仁 (故人)		名和章	難波好陽	難波誠治	新野素子

新美吉昭	二貝清一	西浦武	西岡良弘	西尾茂	西尾瑞舟	西川勝	西川實
西村源治	西村松逸 (優)		西村直城	西山宗元	西山正	二十歩文雄	根崎隆博
納富晋	野坂和左	野坂康起	野嶋峰男	野田東山	延原勝志		

(は行)

萩井一丘	萩井一司	迫二郎	橋爪靖雄	橋本昇三	蓮善隆	長谷川文陽	長谷川豊
秦蔵六	波多野善蔵	波多野英生	羽田登	波多野正典	花輪滋實	羽石修二	馬場九洲夫
馬場弘吉	羽原一晃	浜田英峰	濱中月村	早川収	林恭助	林慶六	林寧彦
林亮次	原清	原田拾六	原田隆峰	ピーター・ハーモン		稗田寿炎	東田茂正
東直人	樋口大桂	樋口雅之	久田邦男	日野田崇	平澤登	平野豊成	平野祐一
廣澤益次郎	広沢葉子	広田優美子	深川巖	福井由美	福岡琢也	福島寛子	福田喜重
福田参平	藤井敬之	藤田潤	藤塚松星	藤村州二	藤原敬介	藤原謹	藤原均
藤原史暁	藤原楽山	冬柴文廣	古堅幸雄	古谷徹	古家喜義	帆足まおり	星野亨斉
細江稔	堀俊郎	堀野証嗣	堀菱子	本郷大田子			

(ま行)

前田泰昭	前端春斉	正宗千春	味舌隆司	眞清水藏六	増田昌弘	松井康陽	松尾潤
松崎健	松嶋弘	松平順彦	松林正人	松村仁団望	松村拓夫	松本為佐視	松本勝哉
松本幹治郎	松本佐一	マツモトタカシ		松本達弥	松本政昭	松本正雄	松本良夫
丸田延親	丸田宣政	三浦硯鈴	三木表悦	水野敬子	水野静仙	水野鉦一	水野教雄
水野雅之	水野真澄	溝上藻風	三田村有純	美藤康夫	皆川隆	宮川香齋	宮川弘尚
宮沢章	宮田豊	宮田亮平	宮地生成	宮地陶博	宮本直樹	美和隆治	向山文也
武藤信吾	夢童由里子	村井一郎	村上東市	村瀬玄之	村田肇一	村山明	室瀬和美
室町勝廣	モーガン・ルイス		本木眞悟	百田暁生	森一蔵	森伊呂久	森一洋
森勝資	森克徳	森川賢道	森里秀夫	森下育郎	森大雅	森田芳伯	森陶山
森村竹芳	森本英助	森泰司	森山寛二郎	森脇文直			

(や行)

安田佳代	安田龍彦	安田道雄	藪内佐斗司	矢部篤郎	山内厚可	山内一生	山口堅造
山口重信	山口宏夢	山城建司	山田和	山田和俊	山田耕作	山田孝藏	山田進二
山田正博	山田みどり	山田義明	山近剛	山出勝治	大和潔	大和努	大和保男
大和祐二	山中辰次	山本出	山本修	山本象成	山本唯与志	山本教行	山本秀吉
山本雄一	山本竜一	弓戸好孝	湯村京子	横山直樹	横山尚人	吉賀将夫	吉川修身
吉川千香子	吉川博治	吉川正道	吉川水城	吉田隆	吉田美統	吉田幸央	吉富文代
好本宗峯	吉本正	米田萬太郎					

(ら行)

楽吉左衛門

(わ行)

若尾経	若尾利貞	脇田宗孝	脇本定三	和田桐山	渡辺朝子	渡辺勝竹斎	渡辺聡
渡辺松華 (礼而)		渡辺琢哉	和田一人	渡久兵衛			

【版画】

(あ行)

鬚嘸	相田一夫	秋元幸茂	有田暁子	安東菜々	池上壮豊	池間英治	井上勝江
植野史煌	えもときよひこ		大槻玲子	尾崎淳子	尾崎斎晃	小原喜夫	尾山章
園城寺建治							

(か行)

河内成幸	川西祐三郎	木嶋ちさ加	木田安彦	木村秀樹	清田雄司	日下賢二	
日下里美	國安珣子	熊谷吾良	黒木良典	古賀章	小崎侃		

(さ行)

サイトウ良	佐久間嘉明	桜井貞夫	佐々木多美枝		塩田みはる	志野和男	鈴木廣
須田敏夫	世古剛						

(た行)

高部多恵子	高柳裕	瀧秀水	田中喜一	田中良平	地井紅雲	茶畑和也	辻憲
鶴岡さゆり	富田文雄	富張広司					

(な行)

なかのよういち		中林忠良	西貝和子	二村裕子	野田哲也	乗兼広人	
---------	--	------	------	------	------	------	--

(は行)

浜田浄	浜本幸男	原三佳恵	藤田慶次	二見彰一	船坂芳助	星野美智子	堀内幸豊
堀江良一							

(ま行)

増田陽一	望月厚介	森岡完介	森島勇				
------	------	------	-----	--	--	--	--

(や行)

山本桂右	山本光生	吉田正樹	代情房子	米倉泰民			
------	------	------	------	------	--	--	--

(わ行)

渡辺達正	渡会純价						
------	------	--	--	--	--	--	--

【書】

(あ行)

浅井機山	綾村捷子	新井光風	飯高和子	池田桂鳳	石飛博光	石本法子	泉雪華
江口大象	榎倉香邨	大石三世子	太田義久	岡美知子	尾崎邑鵬	恩地春洋	

(か行)

笠原祥道	樫本桑牛	北村秋香	黒田賢一	黒野清宇	小島寿	五代梨舟	後藤汀鶯
小伏竹村							

(さ行)

座馬井邨	紫舟	師村妙石	杉岡華邨 (故人)	鈴木春朝			
------	----	------	-----------	------	--	--	--

(た行)

高木聖鶴	田口尹基子	竹中青琥	田中光穂	田中蘆雪	鼓芳石		
------	-------	------	------	------	-----	--	--

(な行)

中川裕皓 中野北溟 中林露風 中村秀峰

(は行)

半田一真 東山一郎 秀島踏波 甫田鴉川

(ま行)

増永広春 水嶋山耀

(や行)

山中秋邦 横山登士子

(わ行)

渡邊笙鶴

【著名人】

(あ行)

藍弥生 青山剛昌 赤江瀑 秋元きつね 吾妻ひでお 有馬頼底 安齋肇 安西水丸
 石田隆 市田ひろみ 井筒啓之 稲畑汀子 植田豊式 上野道善 上村貞郎 宇野亜喜良
 江上泰山 榎木孝明 蛭原あきら エム・ナマエ 大野玄妙 小澤一雄

(か行)

片岡省念 片岡仁左衛門 片山治之 金子兜太 かわぐちかいじ 川津祐介
 河村立司 岸徹心 喜田川昌之 きたざわけんじ 北見けんいち 木村徳人
 きむらゆういち 黒井健 河野太通 小林太玄 小林隆彰 小堀光詮

(さ行)

さいとう・たかを 酒井駒子 酒井雄哉 坂田藤十郎 狭川宗玄 佐々木悟郎 佐藤邦雄
 澤大道 三遊亭圓歌 三遊亭円楽 ジェームス三木 下泉恵尚 下田昌克 下村瑞晃
 宿輪貴子 笑福亭仁鶴 新川和江 鈴木英人 千玄室 千宗左 千宗室 千宗守
 相馬章宏

(た行)

高田明浦 高田良信 高橋真琴 多川俊映 武内祐人 竹宮恵子 田島征三 田代卓
 立本倫子 田中恭一 谷川浩司 ちばてつや 趙治勲 辻和雲 手塚リサ 寺田順三
 唐仁原教久

(な行)

内藤貞夫 永井ひろし 中原誠 中村梅之助 鯉江光二 成瀬國晴

(は行)

萩尾望都 長谷川大眞 長谷川義史 蜂谷宗玄 羽生善治 はまのゆか 林静一 日野西光尊
 日比野克彦 藤枝リュウジ 藤子不二雄[Ⓐ] 藤本義一 古川薫 古川タク
 堀江漣子 堀内宗心

(ま行)

前田昌道 松久保秀胤 松長剛山 マツモトヨーコ 松本零士 M I C A O 水谷八重子

嶺興嶽 村上康成 メグホソキ 森清範 守屋弘斎 モンキー・パンチ
 (や行)
 やくみつる 八代亜紀 安井寿磨子 安彦良和 やなせたかし 矢吹申彦 山口哲司
 山口マサル 大和和紀 山藤章二 やよいとしん 葉祥明 米長邦雄
 (わ行)
 若尾真一郎

【Next Art展】

青木恵 飯島麻里香 板木綾花 イトウチエ 伊奈章之 井原信次 岩崎夏子 うじまり
 臼井千佳子 大平由香理 斧原由季 柏木菜々子 川上亜里子 川嶋陽介 川畑絵 河原佳幸
 九島優 斉藤高志 坂本昌謙 品川亮 白鳥純司 白鳥冴夏 谷口朋栄 田原迫華
 手嶋大輔 土居陽子 長坂誠 仲山佳菜 野川恭平 前田有加里 松川佳代 三木崇行



ご寄付をいただいた皆様

2011年度に全国の皆様から当事業団に寄せられたご寄付は、総額10億552万7004円にのぼりました(東日本大震災救援募金のうち当事業団への指定寄付を含む)。朝日新聞読者をはじめ、企業、団体、グループ、学校など、多くの皆様が、当事業団を寄託先として選んでくださいました。また、近年は香典返しや遺贈の贈り先に当事業団をご指定いただくことも増えてまいりました。ご寄付いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた温かいお志は、本事業報告で紹介している、様々な福祉事業に充てさせていただいております。今後とも、ご支援・ご協力のほど、よろしく願い申し上げます。

なお、ご寄付いただいた皆様は次の通りです(敬称略、順不同)。

※掲載スペースに限りがあるため、匿名希望の方、東日本大震災救援募金指定の方のお名前は省かせていただきました。

- ▼北海道：伊藤美智子、松波己、赤坂好、池田明穂、中村興治、松本脩三、発寒中央病院、鈴木真知子
- ▼青森県：田中誠治
- ▼岩手県：伊藤智章、石川洋子
- ▼宮城県：日野洋子、宮城妙子、朝日新聞仙台中央販売(株)
- ▼秋田県：ASA早口・ASA鷹栄・ASA合川花田金美、菱川泰夫、鈴木泰人
- ▼山形県：松澤昭、矢萩信夫
- ▼福島県：阿部勇、力丸清信、星熊雄
- ▼茨城県：荻原奉祐、奥沢裕二、荻原奉祐、桜井渉、石川演美、辻久茂、樫山診療所
- ▼栃木県：ASA宝積寺、鎌田正信、高柳慎八郎、手塚正志、西田一巳、青木孝雄、滝童内のり子
- ▼群馬県：ASA前橋西部、ASA高崎東部、間宮裕子、矢作正夫、花岡卓二、大井戸診療所、田口美晴、鈴木憲一
- ▼埼玉県：(有)堂下新聞舗、ASA越谷、ASA大袋東部、ASAせんげん台、ASA小手指、高辻歯科医院、遠藤靖夫、岡田征史、菅原整形外科、小幡芽生・八木下梅子、柴田眞樹、吉川年一、(株)フルカワ、(株)朝日新聞浦和西部、宮本眼科医院、古谷信雄、黒川由子、坂本哲也、深谷外科肛門科、杉本誠三郎、大島明日香、中尾紘、猪俣眼科医院、田林クリニック、島田クリニック、東海林英二、別所靖子、豊嶋忠男、名越啓史、蓮田育郎
- ▼千葉県：「小さな親切」運動ちばぎん支部、ASA八千代台、ASA浦安中部、ASA浦安北部、ASA千葉NT中央、石原正太郎、岩間正雄、加藤章吏、(株)朝日カルチャーセンター千葉、川島正治、菊野千寿子、篠原勝彦、鈴木馨(故人)、寺村健、寺村登志子、習志野市立習志野高等学校定時制、宮本宅地造成を考える会、山口慧師、和田医院、安藤博、梶原医院、ASA船橋東部、岸栄輔、宮本博一、金山達也、桑折勇一、高橋啓、根本医院、佐々木裕、三石昭、山内幸夫、柴迪子、植草光春、信沢秀男、水木初彦、石井従道、川瀬健二、浅井邦彦、鎗田努、大久保直利、津田沼病院、田巻勇次、田口久雄、田口泰子、都丸司、唐木田卓司、藤木武夫、柏外科医院、白濱雄三、武藤弘、平成会、カミンスキー・トリオ

- ▼東京都：ASA狛江南、ASA白金、ASA高島平東部、ASA調布、ASA百草園高尾知道、ASA光が丘西部、ASA大塚仲町、JX日鉱日石エネルギー労働組合本部、JX日鉱日石エネルギー労働組合本社支部、朝日新聞信用組合、アサヒシンブンタツノキム、朝日新聞販売局、朝日トップス(株)社員会、足立嘉子、安達良元、雨森剛三、荒川惇、石橋英太郎、逸見善明、いの耳鼻咽喉科、内田昭、宇野勝巳、遠藤信重・ひろみ、大亀喜平、大里かつ子、オガワタダシ、奥山峰石金属工芸60周年記念展、オノデラノブオ、瀧永健一、加藤昭、鐘ヶ江結莉、(株)朝日新聞社、(株)エーステーション、(株)世田谷サービス公社、川田誠、川端百代、金寿愛、(財)原田積善会、高正義彦、河野喜子、コジマアツシ、小島正治、後藤創、五味彰、サイゴウタカコ、(財)杵勝会、齊藤有沙、三枝苗文、真田高志、サン・マルコ、シノジマエリコ、清水歯科クリニック、清水太一、清水勝、テレビ朝日福祉文化事業団、(社)日本コントラクトブリッジ連盟、シンアカサカクリニック、高岡信男、竹下医院、橘ダンススクール、田中理房、谷口省二、種山恵也、寺田眞文、徳梅リカ、富塚茂雄、中野由紀、西村真由美、蜂交会、ハラダソコウ、原優美子、平竹潤、福井一彦、福井正行、古屋武史、北條猛、星野敏男・京子、星野富榮、ホモラチイルジー、町田和子、町田寛子、武藤加代子、村田多美子、山本布貴、(有)アネット、夢編み倶楽部、ヨシコクリニック、平和映像メディア研究所、若山修、阿佐谷クリニック、渥美英子、緑雲会、宇野昭二、羽立賢二、永吉安正、遠藤耳鼻咽喉科・アレルギークリニック、加藤幸雄、可児医院、吉橋市太郎、吉住昭子、吉澤忠一、宮内繁、宮野誠、近藤幸夫、近藤和恵、栗原娑哉、月本眼科、原璟、古川昭四郎、五十嵐篤男、香川杏二、高橋医院、国府田七郎、今村歯科矯正クリニック、佐賀医院、佐々木胤郎、佐藤文雄、佐野小児科医院、坂本薫平、三角偉友、山下クリニック、山下道照、山村隆雄、山本晴美、指田實郎、寺田眞文、柴田琇一、秋山健一、渋谷富業、諸寿子、小さなかけ橋合唱団、小勝竹雄、小野恵夫、小林金太郎、小林伸雄、小林頼重、沼沢医院、森本隆八、神津小児科医院、神塚明弘、神保消化器内科、水上篤、水野和子、杉浦勲、瀬木診療所、清水五百子、清水太一、仙頭邦子、川久保福市郎、浅野明子、相馬信和、増田官太郎、蔵方宏昌、村井丕子、村上公子、大軒由敬、大崎忠義、大房順雄、大澤金政、竹内實昭、中川隆生、中村斐子、中田真人、中尾聡子、朝日新聞王子神谷店、朝日新聞田無西部専売所、長谷川真、椿弥一、堤次雄、鏑木進、田宮貞和、田村クリニック、田部美智子、田辺眼科、渡部通英、渡部内科、渡辺和美、東十条歯科医院、道トキ子、二見清蔵、日上操、伴亘、菱沼幸次、浜田隆、富村憲一、平川恒久、米良哲、北村満子、堀江恒雄、堀上謙、本浄寺、毛利康夫、木野村医院、有田孝久、利根澤正弘、鈴木以佐夫、鈴木医院、和佐洋平、糞谷クリニック、梅沢正樹、専修大学附属高等学校ゴルフ部、田中喜久子
- ▼神奈川県：(有)パナケーア剣持正子、ASA綾瀬東部、ASA鷺沼、ASA逗子、ASA鎌倉中央、ASA衣笠池上、ASA横須賀中央、ASA田園田奈社員一同、ASA天王町、ASA戸塚中央、ASA向ヶ丘遊園、ASA永田町、ASA三ツ境南部、ASA上大岡社員一同、m・m、飯塚眞之、彩歩の会、(株)エイワ、(株)野村新聞店、慶應義塾高等学校ライブラリークラブ、コクボ診療所、小杉弘、後藤正、斉藤信子、斉藤隆三、佐々木光明、

島内知子、杉山元孝、日高よし子、ミキプルーン剣持グループ有志一同、(有)三和看護婦家政婦紹介所、(有)志村商事、阿部純和、伊東義雄、磯野喜美子、猿田逸夫、岡野功、家本誠一、貝沼菊子、君和田正夫、鶴沼クリニック、細谷正二・洋子、桜井祐二、手島温子、小杉弘、小沢初江、小沢太郎、小林清吉、松岡豊治、菅總充郎、清水眼科、西連寺完茂、青木継稔、石川一彦、川戸弘次、川辺和夫、代田治彦、大堀末雄、竹市義弘、中島善範、中尾英一、渡辺弘、渡辺克己、南嶋昭政、飯沼和夫、飛鳥井洋子、尾崎昭雄、菱沼保幸、平田キヨ、北村皮膚科、野村良彦、齋藤洋一、菅井良幸、横浜K・S

- ▼新潟県：荒川修二、大津裕、(有)岩崎新聞店
- ▼富山県：富山県義肢製作所
- ▼石川県：菊知龍雄、小西奎子
- ▼山梨県：日原良二、深沢要士、井上利男、中沢久子、湯本星華
- ▼長野県：高遠高等学校平成23年度3年C組、わかば会俵町浜野病院、宮沢東洋雄、後田敏子、福田外科病院、高岡願生、師岡恒司、小坂健介、森芳弘、中尾カスミ、長野中央病院、田中暢子、百田眞瑳彦、望月正子、北村喬、牟田義人
- ▼岐阜県：ASA多治見中央、池田博、加藤孝之、岩館憲幸、岩佐清、熊谷八重子、池田勝、竹中武弘
- ▼静岡県：佐野ヒフ科クリニック、柴千佳子、篠原、(株)三島新聞店、関伸二、岩本和雄、稀代幸雄、吉川胃腸科外科医院、吉田三毅夫、宮田憲一、(財)静岡県高等学校野球連盟、山口智之、指出泌尿器科、松下産婦人科医院、日野昌徳、(有)多々良新聞店、鈴木正巳、藁科正弘
- ▼愛知県：ASA安城鈴木正和、ASA蒲郡、ASA碧南小久保茂樹、朝日新聞名古屋販売(株)、池村秋生、伊藤隆之、今井常喜、(株)中部朝日広告、神谷一嘉、川口澄男、斎木清治、杉本宗孝、高橋昭彦、政秀会、羽根康秀、加藤文男、佐藤制一、坂井数富、三浦豊、三木眞嗣、山口徹、山中寛紀、山田二郎、山田美智子、志賀博、渋谷正章、小林昌雄、小林章甫、松野辰弥、水谷澄男、西田武夫、青島正次郎、青木茂、浅井久雄、早川常彦、太田宏、大石文恵、大野敏郎、池田信之、中江良子、中西綾子、ASA神の倉・平針、長坂智子、飯塚直樹、尾関博、尾野忠雄、服部明、平澤菜穂、木村佐登美、野田一三、野武二郎、林清敏、鈴木孝彦、愛知商業高等学校生徒会、名古屋美術青年会、深雪会
- ▼三重県：ASA津販売、津豊ヶ丘キリスト教会市民クリスマス、萩原豊子、水谷鎮至、加藤泰、山川誠一、山本克己、野呂純一、熊谷彰、亀井邦明
- ▼滋賀県：田沼榮、村井宏行、山崎時雄、小西医院、植村良雄、石原愛子、藤田保、藤野滋、白木孝尚、堀井とよみ、立木健、岩元市三、辻寅建設
- ▼京都府：石川喜一郎、京都聖母学院中高等学校生徒会執行部、浜田綾子、森下ヒサ子、山口妙子、岡田医院、井上曜子、(株)メスプコーポレーション、小牧貫治、松本秀雄、須藤朝代、西村完生、長井苑子、南野精一、姫木真由美、大隈靖彦
- ▼大阪府：JX日鉦日石エネルギー労働組合関西支部、朝日新聞大阪中央販売(株)、朝日新聞河南販売(株)、ASA富田林北、池本貞雄、片山恂、金容輝、グレース幼稚園、桑田洋太郎、

公益財団法人大同生命厚生事業団、嶋倉宏、中島正幸、西田卯一、藤田一、細川福義、松井繁、水谷泰子、宮前篤美、安岡内科医院、井上義次、永田清員、永田勇、奥順一、岡田輝章、荻田幸雄、下出眼科、皆見雅男、(株)朝日新聞栗本新聞舗、橋本文夫、玉井正光、月輪寺・榎本桑牛、後藤和彦、高橋徹、高山直子、佐藤勉、細川福義、三浦茂子、山村博通、山中守、山中博、山田敏基、山本哲夫、寺沢武彦、小清水英二、小西良作、小竹武、松下勤、松本富夫、上田輝雄、上田孝之、森卓也、人生道場、菅原猛行、菅野正夫、西田卯一、西田利夫、切通良昭、谷岡賢徳、中島チエ子、中島正典、辻野美治、田口鐵男、田中勝美、渡辺勝彦、土居利夫、東大阪三和東洋ビル、藤沢魁、内田敬義、楠宗一、畑中二郎、武田一士、武林明、伏谷魁、福山章紀、福山章紀、米良博量、北中登一、牧栄美、堀昭一、本田寅二郎、木本君子、鈴木實、朝日新聞社内募金箱、朝日チャリティー美術展会場募金、大阪市信用金庫、大阪府レクリエーション協会、大阪深雪会、北新地社交料飲協会、近鉄タクシー・近鉄タクシー労働組合、桑田敬信、小峰聖子、(株)サンディ、清水勇、聖愛幼稚園、辻外科リハビリテーション病院、日曜画家協会、能楽協会大阪支部、萩原永美子、濱田節子、増田武司、松原美佐男、山口茂吉、大和梱包、山本勝治、しゅくしゅく、渡辺、平塚久男

▼兵庫県：A S A 芦屋南、A S A 名谷、小西孝彦、せきじま産婦人科、中谷カルナー財団、長浜高義、長谷川敏郎、廣辻逸郎、佛立寺婦人会、三宅潤、杜葉義隆、安丸正浩、稲垣由子、岡本毅彦、花井彩、甘露寺、吉田貞芳、権田武、合田興世、阪神朝日会第3ブロック、三宅潤、宗実琴子、小椋忠義、森功、真生園有志一同、神澤正三、蟬川勝己、村居哲、待田順治、大江良一、谷順、朝倉吉平、長野正憲、道又央、白野教一、畠中正昭、麻生泰成、鈴木敏男、和田産婦人科医院、伊藤通、K・S

▼奈良県：M I N I 奈良、浄土宗崇徳寺安井良道住職と檀信徒有志、八木一夫、安江桂昇、山内昌孝、谷義郎、長崎弘、平井恵津子、藏本聰子、川畑宗一、茶道表千家青嵐会、日根文男、宮崎新嗣

▼和歌山県：かわらの小児科

▼鳥取県：岸田剛一、組藤弼郎、矢谷啓、安木洋子

▼島根県：安部利一、江口茂雄

▼岡山県：石原清

▼広島県：蚊の涙二世志願者、今田義孝、中村耕也、富吉俊三、北浦照明、石井美智子、柿本正廣

▼山口県：原田巖・初称、伊藤光夫、光風会岩国中央病院、竹内医院、洋明会友近内科循環器科医院、井本芳宣、稲川芳雄、下関郷土学習会長、河上勲、河上和洋、吉見ラジオ体操おはよう会、吉村内科医院、宮本甫子、隅田茂生、護國寺、光内美恵子、高松恵美子、山根喜美、(社)素心会神徳内科医院、秋田香栄子、小見山藤子、小林三郎、松崎浩司、織田哲至、深本良一、大島喜代子、湯田自動車学校、藤本裙子、徳山小学校ボランティア委員会、徳田修、日置農業高等学校生徒会、武居稔博、福山道義、片岡逸、堀田尚、末次清、和田鵬亮、高山晋洋、二宮新聞販売店、(有)朝日新聞防府中央、A S A 大畠、伊藤新聞販売店

▼徳島県：稲次正敬、稲富義治、小畑光正、上甲哲史

- ▼香川県：藤田典生、桑島実、某
- ▼愛媛県：合田治二、福井敦子、木田洋、砥部焼陶芸館
- ▼高知県：梶原和歌、高橋幹博、相良祐輔
- ▼福岡県：(株)坪井商店、ASA南行橋、有馬律生、一森軍生、いづみ学園、大塚保人、奥野豊、奥村博一、川原義守、木下京子、倉本恵美子、小熊坂静子、酒井キヨ子、園田正信、中尾研輔、日比生隼斗、平利光、福岡吹奏楽連盟、松浦範子、安元サツ、安西義孝、安村茂男、安田保實、安藤倫子、安部秀範、伊地知于太郎、伊豆皮フ科医院、行橋クリニック、八十八会ツジ胃腸科医院、井上敦子、井上静子、井上祐毅、井上聰、井本武彦、磯矢昭三、一寿会西尾病院、稲永清泰、永田諫也、永田泰徳、榎田清則、横田チヨ子、加治胃腸科内科医院、加治屋三郎、加藤隆、加未勉、河野直重、柿添皮膚科医院、梶山千里、梶谷忠夫、鴨川隆彦、苅田ロータリークラブ一同、丸野了、岩田光雄、岩渕邦夫、吉永正人、吉永皮膚科医院、吉田なおみ、久野達明、宮田英、宮本産商(株)、救世主教、金子病院、金子隆彦、熊野ちよ、栗原悟、栗原公足、桑原純、桑名純恵、原トモ子、古賀信次、古庄三喜男、古川和則、戸田三七生、光井医院、光生会久留米厚生病院、光富慎吾、向笠内科医院、工藤五六、恒富誠、江島幸子、溝部忠増、荒木不動産、高村広、高嶋クリニック、高嶋康年、高木カツヨ、国際ソロプチミスト北九州一東、今井眞澄、今村寿和、今本久美子、今林昭、佐々木愛子、佐々木清、佐保肇、佐野武、坂田春海智、三善病院、山下幸子、山下春子、山下新一郎、山本英雄、山本賢輔、山本史郎、山本清子、山本哲夫、手嶋秀子、法泉寺、宗田利明、秋枝蕭子、秋成府左治、渋江医院、春日雅樹、小館三郎、小原秀俊、小崎哲也、小石純也、小倉中央診療所、小嶋房江、松井昭子、松下徹、松原建彦、松股会OZUMIクリニック、松本富士夫、松木俊正、上田英敏、城島伸介、常盤薬品(株)北九州支店、植村麗爾、植田朋子、森真由美、森脇巖、真島敬一郎、水ノ江正、水上平吉、生野茅子、西山浄土宗阿彌陀寺、西生寺護持会、西明内科消化器科医院、青山整形外科医院、石原タロー、石川節子、石田明男、石本耕治、赤司光生、川関富美子、川原洋治、扇谷範可、浅井文人、前田奉一郎、前田稔、村上啓子、村上歯科医院、村上葉子、多川洋子、多田毅、太田久香、大久保主税、大西克己、大西純一、大石雅史、大村公人、大林りり子、谷口幸子、池田暁彦・加寿子、池島信二、竹藤寛、竹内サキ子、中原肇哉、中村耆郎、中村治雄、中村寿、中村洋子、中島乃婦子、中美穂子、長治良知、長野實、津川信、貞松堂印房、田原整形外科医院、田川勇、田中啓介、田中時雄、田畑親、田尾美智代、渡邊千鶴子、土居麗子、土倉外科胃腸科医院、島崎芳孝、東野利夫、藤崎良之、藤巻義範、藤見胃腸科内科医院、藤崎節子、藤崎良人、藤島クリニック、内山健治、内田満寿、日吉憲司、日原五郎、日高義之、日高孝枝、日朝高晴、波多野昌二、柏木昭二、白石胃腸科内科医院、白石内科医院、畠中保實、飯田隆之、肥海芳行、富岡春子、風師山早朝登山会、副島恒彦、福山清美、福田宏行、福田礼子、福島新生、平井信廣、平田淑子、平田澄穂、平田利栄、平野敏弘、保永惇治、牧山薫、末吉納、牟田芳子、明治学園小学校児童会、木原洋世、木村幸隆、木村賢示、野口貢、野上智宏、矢野寿啓、油絵屋大哲、友井滋、有馬護宏、鈴木内科小児科医院、和田勉、實藤正利、淵上鯉一、成重博美、溝口義晴、重光貴葵、藏永知

彦、竹中久、福吉美代子、北九州市身体障害者自動車協会、栗山太、姫路秀明、飯塚聖母幼稚園、眞野征子、竹腰睦夫、梶務、西日本カラオケ連合、池田広美、目原清嗣、黒川五郎、荒木見悟、安部忠吉、朝日メディアテック社員一同、香川医院、島崎芳孝、堀益一、魅モード1、藤好美千代、雪の聖母会聖マリア病院

▼佐賀県：江里口良子、再整会口石病院、信愛整形外科医院、啓心会啓心会病院、斎藤博之、柴田義隆、森病院、誠晴會納富病院、石井外科医院、長谷川敏子

▼長崎県：岸川美和、朝日新聞長崎販売（株）、ASA住吉、田中暢子、後田敏子、俵町浜野病院、高岡願生、中尾カスミ、北村喬、百田眞瑳彦、牟田義人、福田外科病院、赤木輝子

▼熊本県：岩田敏子、西覚寺仏教婦人会、野崎隆、山田栞、翔洋会姫戸医院、寿量会、岡山会九州記念病院、宮家隆次、宮田和子、志方栄吉、森本政幸、樽海友希、福井博義、高群由美子

▼大分県：朝日新聞日田販売（株）、山本宏子、吉松忠徳、安部哲哉、栗林医院、河野なみ子、佐々木伸子、佐藤トシ子、山野内定隆、山崎福男、神戸信之、成安浩治、石崎晃一郎、八坂シヅ、椋園ミヨ子、野上和恵、野津川登、友松功一、ASA犬飼、稲垣和作、中山政己、朝日新聞大分販売（株）、広田久子、湯布院厚生年金病院

▼宮崎県：井上清美、十善会県南病院、赤池義昭、野田隆、ASA宮崎江南

▼鹿児島県：阿久根医院、出水郡医師会立阿久根市民病院、田原睦郎、藤山清郷、福山茂雄、北沖弘和・佐智子、木村龍一郎、鹿児島県朝日会

▼沖縄県：仲村宏春、大城和

朝日福祉ガイド DVD・ビデオ・本のご案内

◆朝日福祉ガイド DVD◆

- | | |
|--|--|
| 『自閉症の人が見ている世界 全3巻』
(特別割引価格 12年9月まで 9,900円)
各巻 4,300円 | 自閉症の人の考え方や感じ方の「違い」について、自閉症の人自身が語る言葉と映像は、自閉症を正しく理解する原点。第1巻「自閉症の人の学習スタイル」(63分)・第2巻「自閉症の人が好むこと」(39分+全3巻のダイジェスト21分)・第3巻「13人のエピソード」(85分)。 |
| 『自閉症の子どもの評価 全4巻』
セット価格 18,000円
各巻 4,800円 | 自閉症の人たちを正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、分かりやすく映像化。第1巻「評価のしかた」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。 |
| 『自閉症の子どもの自立課題 全3巻』
セット価格 13,500円
各巻 4,800円 | 「自分是可以する」という感覚を養い、いろいろなことに取り組む意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題のできあがり」(49分)。 |
| 自閉症児の治療教育シリーズ
(米国ノースカロライナ州 TEACCH プログラム)
各巻 3,000円 | |
| 『自閉症児の明日のためにーTEACCH のねらいと考え方ー』 | プログラムの全体像をセラピストの立場から紹介、自閉症の人たちを援助する上で何が必要かを示唆(49分) |
| 『親のための TEACCH プログラム』 | 親が実践できるように、家庭での援助の実際を具体的に分かりやすく紹介(67分) |
| 『教師のための TEACCH プログラム』 | 教室やスケジュールの設定、親との連携など、教師や指導員の参考に(69分) |
| 『青年期・成人期の TEACCH プログラム』 | 学校卒業後の就職・居住・余暇など青年期・成人期向けの援助法を紹介(55分) |

◆朝日福祉ガイドビデオ◆

- | | |
|----------------------|--|
| 『自閉症の治療教育』
3,000円 | 全米自閉症児親の会の様子や米国ノースカロライナ州の自閉症の療育への取り組みを紹介。(60分) |
| 『TEACCH』
3,000円 | TEACCH部で行われている1週間にわたる教師のための訓練セミナーの様子を詳しく紹介。(90分) |

◆朝日福祉ガイドブック◆

『認知症とともに』 1000 円	認知症の人や、その家族のために、診断から治療・ケア・介護サービス、施設への入所や看取りまでイラスト入りで解説。
『精神障害者のホームヘルプサービス』 800 円	精神障害を正しく理解し、当事者の立場で支援できるよう、関係者の体験談や豊富な事例で分かりやすく解説しています。
『自閉症の人を支援するということ』 800 円	TEACCHプログラムの最高責任者、ゲリー・メジボフ教授が自閉症の障害とプログラムの内容を分かりやすく解説。
『自閉症のひとたちへの援助システム』 500 円	TEACCHプログラムの実践事例を豊富な写真とイラストで紹介しながら、プログラムを日本でいかに生かすかを提案。
『100%あたらくん』 600 円	自閉症のあたらくんの活躍を、母親が描いた4コママンガ。自閉症の子どもと、その家族の日常が理解できます。
『きみといっしょに』 500 円	全国のLD児を持つ親たちが、LD児への理解や付き合い方をまとめた手引。Q&Aと、推薦する相談・診断機関なども掲載。
『くるまいす-第3改訂版』 300 円	車いすの種類や構造、介助の基礎的な方法やポイントを分かりやすく解説、公共交通機関の利用についても触れています。
『新・川崎病がわかる本改訂増補版』 500 円	乳幼児を中心に発病する原因不明の“川崎病”について症状や特色、療養上の注意、相談窓口などの情報を加えて解説。
『小児ぜんそくは治る』 500 円	小児ぜんそくを正しく理解し、どのように予防し、治していくか。原因への知見を織り込み、分かりやすく解説しています。

◆お申し込み・お問い合わせ◆

ご希望の方は電話かFAX、電子メールで下記までお申し込みください。
(タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記)
HP (<http://www.asahi-welfare.or.jp/>) からもお申し込みができます。
朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオ係
〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2 郵便振替 00130-1-9166
tel : 03-5540-7446 fax : 03-5565-1643

朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

人間尊重の原点に立って

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食料、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金を始め、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」）を催しました。これらの寄金を食料や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診療券、常備白米券を配り、困窮者への「出世資金」の貸し出しや農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは、現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協会を設立し、保健・育児など多岐にわたる活動は日本の保健師制度の基礎を築きました。

第2次大戦後は、戦災者や引き揚げ者への家庭常備薬や衣料品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃虚の中での明るい話題は、49年9月にインドのネール首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。

52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京・大阪・西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

戦後の復興とともに本格的な福祉事業への取り組みが始まり、児童福祉法施行5周年を記念して大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らす高齢者の温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子146組の対面を実現しました。ハンセン病の正しい理解と患者支援のために「大阪ハンセン病協力会」を設立し、「アサヒベビー相談室」を大阪・名古屋のデパートで開設したほか、大学医学部による全国の無医地区診療など、医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出動して被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。

高度経済成長とともに事業を拡大しました。三重県多徳島の「アサヒ志摩キャンプセンター」、愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重町の「朝日高原福祉センター」を開設し、福祉施設の子どもや障害のある子どもが参加するキャンプ事業が始まりました。また、激増する交通遺児家庭への支援活動を始め、視覚障害の学生のための奨学金制度も創設しました。

障害のある人や難病患者への支援も本格化し、電動タイプライター・電動車いすの贈呈や普及

キャンペーンを展開。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や、福祉先進国を訪ねる「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。「ヨーロッパの旅」は障害のある人の海外旅行の先駆けとして注目され、これらの集会や旅の参加者の多くが、障害者自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」（86年に「朝日福祉助成金」に統合）を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど、草の根福祉活動の支援を進め、認知症など介護の必要な高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家族相談室」も開設しました。

81年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーションの理念を基に、コミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者の医療や福祉の先進国である欧米5カ国に視察団を派遣し、日中平和友好条約締結10周年を記念した「日本・中国車いす市民友好相互交流」も実施しました。

また、自閉症の支援システム「TEACCH（ティーチ）プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招いて研修会を開き、ガイドブックやビデオを制作・頒布するなど、本格的な普及活動を開始。2002年からはその実践者千人余りが集う「自閉症カンファレンスNIPPON」を開催しています。同時に学習障害児（LD）の理解を進める公開相談会や、深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。手話の普及とボランティア活動・福祉教育の推進をはかる「全国高校生（大学生）の手話のスピーチコンテスト」は84年にスタート、「手話の甲子園大会」として定着しています。91年からの「アジア障害者の10年」にあたり、全国の障害者施設・団体と協力して、タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピンなどに車いすを贈る運動を展開、障害のある現地の人が車いすを製作・修理する工場を開設しました。

一方、83年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ、国内外で起こった災害に対応して、救援募金を呼びかけてきました。91年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島・長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療し、現地の医師が被曝（ひばく）治療の研修を受けました。95年1月の阪神淡路大震災では、救援拠点として「朝日ボランティア基地」を開設し、高齢者・障害者への緊急援助や仮設住宅世帯、アジアからの留学生、被災児への支援など、多岐にわたって活動。2004年の新潟県中越地震では、被災者の心のケアをはかる事業を展開しました。この実績は11年3月の東日本大震災でも生かされ、両親を失った子どもに一時金を贈る「こども応援金」など、独自の救援事業に取り組んでいます。

東京・大阪・西部・名古屋で独立して活動してきた各事業団は01年4月1日に合併して、「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」となり、全国的な活動に力を注いでいます。

08年には創設80年を迎え、記念事業として「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」をスタートさせました。09年度からは「子ども」「障害者」「高齢者」を事業の3本柱とする基本方針のもと、活動を続けています。今後とも、これまでの実績を生かし、人間尊重の原点に立って、「共に生きる豊かな福祉社会」の実現をめざし、先駆的な事業に取り組んでまいります。

2011年度 収支計算書

(2011年4月1日～2012年3月31日)

単位：円

事業活動収入	1,211,344,292	事業活動支出	956,793,522
事業収入	189,620,342	事業支出	696,572,650
児童福祉事業	5,854,989	児童福祉事業	473,977,800
障害者福祉事業	20,721,620	障害者福祉事業	70,037,826
高齢者福祉事業	258,540	高齢者福祉事業	48,508,741
西部福祉助成金	0	西部福祉助成金	2,559,580
チャリティー事業	132,787,103	チャリティー事業	74,652,052
医療と公衆衛生	3,946,946	医療と公衆衛生	412,891
福祉啓発推進	0	福祉啓発推進	1,106,977
朝日福祉ガイド(DVD 他)	26,051,144	朝日福祉ガイド(DVD 他)	25,316,783
寄付金収入	1,005,527,004		
引当金戻入	14,937,953	引当金繰入	23,043,740
雑収入	1,258,993	人件費	173,731,871
		事務費	62,215,232
		減価償却費	1,230,029
事業活動外・特別収入	19,117,322		
財産収入	12,776,372		
特別収入	6,340,950	当期活動収支差額	273,668,092
合計	1,230,461,614	合計	1,230,461,614

理事・監事・評議員名簿

2012年3月31日現在

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団／理事・監事・評議員

(理事6人、監事2人、評議員13人) 敬称略・順不同

理事長	両角 晃一	朝日新聞社役員待遇 広報・環境担当兼お客様本部長
常務理事	高畑 芳秋	朝日新聞厚生文化事業団常務理事
理 事	佐々木正美	川崎医療福祉大学特任教授
同	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長、元環境事務次官
同	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事
同	越村佳代子	社会福祉法人こどもの国協会常勤理事・副園長
監 事	南 靖武	社会福祉法人恩賜財団済生会支部東京都済生会業務担当理事
同	亀岡 保夫	公認会計士
評議員	山田 昭義	社会福祉法人A J U自立の家専務理事
同	野村 寛	社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	影山 秀人	弁護士、NPO法人子どもセンターてんぼ理事長
同	阿部 幸雄	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	武田 淳一	朝日新聞東京連合朝日会会長
同	越村佳代子	社会福祉法人こどもの国協会常勤理事・副園長
同	森田 秀男	財団法人ベルマーク教育助成財団理事
同	関戸 衛	元朝日新聞厚生文化事業団常務理事
同	福地 献一	朝日新聞社ゼネラルマネージャー兼東京本社報道局長
同	室田 康子	朝日学生新聞社管理担当兼総務部長
同	横山 宏	朝日新聞社財務本部長
同	両角 晃一	朝日新聞社役員待遇 広報・環境担当兼お客様本部長
同	橋本 文雄	朝日新聞厚生文化事業団大阪事務所長

お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿

■本部

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
 TEL03(5540)7446 FAX03(5565)1643
 □郵便振替…口座番号「00130-1-9166」
 □銀行振り込み…三井住友銀行新橋支店 普通「303668」

■大阪事務所

〒530-8211 大阪府大阪市北区中之島3-2-4
 TEL06(6201)8008 FAX06(6231)3004

■西部事務所

〒803-8586 福岡県北九州市小倉北区室町1-1-1
 TEL093(563)1284 FAX093(563)1287

■名古屋事務所

〒460-8488 愛知県名古屋市中区栄1-3-3
 TEL052(221)0307 FAX052(221)5453

※ご寄付に際して朝日新聞厚生文化事業団が振込料金を負担する「郵便振替用紙」をご希望の方はご請求下さい。銀行振り込みの場合は事前にご連絡下さい。

※各地の朝日新聞本社・支社・総局でもお受けします。

※当事業団への寄付金は所得税法・法人税法による寄付金控除が認められています。

朝日新聞厚生文化事業団職員名簿(2012年3月31日現在)

■本部(東京)

事務局長 安達 周
 事務局次長兼広報担当部長
 谷 啓 之
 管理部長 池谷 澄子
 事業部長 福田 年之
 野崎 貴士
 中村 宣人
 落合 すが子
 古屋 厚子
 中村 智佐子

■大阪事務所

事務所長 橋本文雄
 次長 岩切 修次
 事業担当部長 中村 茂高
 脇 敬子
 柳沢 佐和子
 小倉 玲子

■西部事務所

事務所長 重光 雄二
 佐々木 菜摘

■名古屋事務所

事務所長 亀井 邦明
 山田 たまみ

THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

2011

平成23年度

事業
報告

ホームページで福祉情報を発信しています

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

「2011年度 事業報告」

2011年4月 1日から

2012年3月31日まで

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団